

スルコトアルモ時トシテ何等變化ナキコトアリタメニ是等ノモノハ臨床上ヨリ云ヘハ全快ナルモ防疫上ヨリ見ルトキハ患者タルモノナリ

(三) 保菌者 始ヨリ何等病の症狀ヲ起スコトナク糞便等ニ病毒ヲ排泄スルモノヲ云フコレヲ「赤痢」チフス等ノ流行ノ際ニ屢之ヲ發見ス殊ニ男子ヨリ女子ニ多キヲ奇ナリトス之ハ患者ト異ナリ他ヨリ監視ヲ受ケサルヲ以テ病毒傳播上ニ大影響アルモノナリ

(四) 動物 動物ニシテ人類傳染病ノ病毒ヲ保チ之ニヨリ人類傳染病流行ノ原因ヲナスモノアリ然レモ病ノ種類ニヨリテ傳染方法上多少趣キヲ異ニス

イ、罹病動物 二三ノ疾患ニ就テハ動物自己モ同一ノ疾病ニカ、リ體內ニ病毒ヲ含有ス鼠ノ「ペスト」ノ如キ狂犬病ノ如キ之ナリ

ロ、動物自己ハ病トナルヤ否ヤ不明ニシテ而モ病毒ヲ體內ニ保チ刺傷等ニヨリ之ヲ人ニ傳フルモノアリ彼ノ「ペスト」再歸熱發疹チフス等ヲ傳搬スル虱蚤蚊ノ如キ之ナリ又彼等ノ糞便中ニハ往々生菌ノ存スルヲ見ル

ハ、動物ノ體內ニ入り一定ノ發育ヲ更テノチ始メテ人ニ來ルモノアリ「マラリヤ」ノ蚊體ニ於ケルガ如キ之ナリ又他ノ人體寄生蟲ニ於テモ如斯キ徑路ヲ取ルモノ少カラズ

ニ、單ニ動物ノ體ノ表面ニ附着シテ直接人體ヲ侵シ又間接ニ更ニ食物等ヲ汚染シテノチ夫レト共ニ人體ニ入ルモノアリ彼ノ「コレラ」チフス「赤痢」等ノ糞便ニ止マリタル蠅等ノ媒介ニヨリ傳染スルカ如キハ之レニ屬ス

(五) 食物 食物ニハ元來病毒ヲ含ムモノアリ牛肉牛乳中ノ結核菌ノ如キ縱蟲旋毛蟲等二三寄生蟲ノ肉類ニ於ケルガ如キハ此ノ種ニ屬スルモ多クハ他ヨリ附着シテ其ノマ、保存セラレ或ハ其ノ中ニテ發育増加シテ傳染ノ原因ヲナスモノナリ野菜類ニ保タル、病的菌又寄生蟲ノ如キハ前者ニ屬シ牛乳中ノ「チフス」菌ノ如キハ後者ニ屬ス

(六) 患者等ノ排泄物 傳染病ノ多クハ其ノ排泄物ニ病毒ヲ含有スル者ナリ傳染病ノ種類ニヨリテ之ヲ含有スル排泄物ヲ異ニス(細菌學參照) 病毒ニヨリテ只一種ノ排泄物ノミニ保タル、アリ或ハ數種ノ排泄物中ニ

- 顯ハル、者アリ又排泄物中ニ生存シ傳染力ヲ有スル期間等ニモ差アリ
- (七) 汚水、塵芥 患者或ハ病獸等ノ排泄物等ノ混入スルコトアルヲ以テ此ノ中ニハ病毒ノ存在スルモノト見做スヲ至當トス勿論終ニハ其ノ中ニ於テ死滅スルモノナレモ一定時間ハ生存スベシ
- (八) 水 井水、河、湖水等中ニハ病毒ヲ含有スル排泄物侵入シ流行病ノ原因ヲナスコト多シ
- (九) 土壤 之ハ亦排泄物等ニヨリ汚サレ病毒ヲ保ツコトアリ殊ニ破傷風菌ノ如キ芽胞ヲ有スル病毒ハ永久ニ存在ス
- (十) 空氣 空氣中ニモ病毒ヲ保チ之ニヨリ傳染スルモノアリ乾燥シ塵埃ノ如キ状態トナリテ空氣中ニ浮遊スルモノハ一般ニハ其傳染力ハ弱キモノニシテ左程ノ危険ナキカ如シ然レモ濕潤状態トナリテ空氣中ニ浮遊シ且ツ肺ヨリ傳染スルモノハ大ニ注意ヲ要ス肺、ベスト、肺結核、インフルエンザ、患者ノ咳嗽ノ如キハ不用意ノ接近者ニ傳染ノ危害ヲ與フ然レモ此ノ際ハ病毒ハ微細ノ水滴ニ附着スルモノナレバ自己ノ重サニヨリ沈落スルモノナルヲ以テ患者ヨリ離レテ遠方ニ浮遊セズ且ツ空氣ノ換

氣ヨキ所ニアリテハ一ハ之レニヨリ稀薄スル以テ少ク患者ヨリ隔リタル人ニハ危害ヲ與フルコト少シ

- (十一) 衣服用具、家壁、床 患者ノ使用シタル衣服用具其ノ住居スル家屋ノ壁障子、襖、床等ニハ病毒ノ附着ヲ脱レズ病ノ種類ニヨリ之ヲ汚染スル度ヲ異ニシ又部分ニヨリテハ全ク汚染セザルモノアリ
- 如此ク其存在スル處種々ナルガ病毒ノ人身ニ來ルハ其ノ含有スル物質カ直接ニ人體ニ入ルコトアリ食物ノ如キ水ノ如キ將空氣ノ如キ病毒ヲ含ミタルマ、侵入シ來リ病ヲ來ス即チ含有物ハ同時ニ其ノ侵入徑路タルモノナリ又含有物ヨリ何等カノ媒介ニヨリテ人體ヲ冒スモノアリ例之ハ之ヨリ手足ニ附着シ更ニ體內ニ入り或ハ食物ニ附着シ或ハ蠅ノ媒介ニヨリ輸ハル、アリ又一定ノ病氣ニアリテハ昆蟲ノ體ヲ借ルニアラザレバ人ヲ侵シ得ザルモノアリマラリヤハ蚊ニヨリ黃熱モ一種ノ蚊 (*Stegomyia fasciata*) 其ノ媒介セラレ蚊ナクハ他ノ要約アリトモ決シテ傳染スルコト能ハザルナリ
- 三 侵入門 傳染病ニ罹ルニハ人體ニ侵入門ナカルベカラス病毒ニヨリテ各好デ侵入スル門ヲ異ニス而シテ侵入門ノ主ナル者ハ消化器、呼吸器、並

ニ皮膚粘膜ナリトス主トシテ呼吸器ヨリ侵入スルモノハ結核、肺炎、インフルエンザ、麻疹、天然痘、猩紅熱、流行性腦脊髄膜炎、チフテリア等ニテ主ニ消化器ヨリ入ル者ハコレラ、チフス、バラチフス、赤痢、腸寄生蟲等ナリ又多ク皮膚并ニ粘膜ヨリ傳染スル者ハ破傷風、癩、ペスト、發疹、チフス、再歸熱、微毒、ワイル氏病、麻疹、マラリヤ、狂犬病、黃熱並ニ十二指腸蟲、日本住血吸蟲ノ如キモノナリ上述ノ病中侵入門ノ單ニ一ニ限ラルルモノアリ例之ハコレラ、チフス、赤痢ノ如キハ口ノミヨリ入り他ノ二侵入門ヨリハ傳染スルコト能ハス又麻疹、マラリヤ、狂犬病ノ如キハ皮膚或ハ粘膜ノミヨリス又二個ノ侵入門ヲ有スルモノアリワイル氏病毒、十二指腸蟲ノ如キハ皮膚並ニ消化器ヨリ入り又三侵入門ヲ有スルモノアリ結核、ペスト、菌等ノ如キハ呼吸器、消化器並ニ皮膚ヨリ襲來シ得ルモノナリ

如此吾人人體ニハ病毒ノ侵入門アリトモ之ガ健全ナル場合ニ於テハ天然防禦裝置アリテ容易ニ敵ノ外襲ヲ許サス呼吸器粘膜ニハ例ノ纖毛細胞アリ此ノ運動ニヨリ侵入シ來リタル病毒ヲ外ニ送り出シテ停滯ヲ許サス從テ其處ニ發育繁殖セシムルコトナシ慢性氣管枝加答兒等ノ病的作用アリテ

組織ニ變化ヲ起シタルトキ其ノ發育ヲ來スモノナリ又消化器ニ付テハ胃液ハ強キ酸ヲ有スルカタメ多クノ病的菌ハ此ノタメニ撲滅セララル之ヲ通過スルハ即チ胃液ニ變常ヲ呈スル場合或ハ多大ニ稀薄セラレタルルナリ又皮膚粘膜ニハ表皮細胞アリ十二指腸蟲、日本住血吸蟲ノツエルカリヤノ如ク自カラ穿入スル力ヲ有スルモノハ別ナルモ他病的菌ハ普通附著シタルノミニテハ侵入シ能ハサルナリ稀ニ健全ノ皮膚粘膜ヨリ侵入スルコトアルガ如シトモ多ハ微細ノ損傷アリテ始メテ傳染シ得ルモノナリ殊ニ粘膜ニハ部位ニヨリテ殺菌力アル分泌液ヲ平素分泌シテ病的菌ノ繁殖ヲ防ク處アリ腔部ノ如キ之ナリ要スルニ健全ナル呼吸器、消化器並ニ皮膚粘膜ハ容易ニ病毒ノ侵入ヲ許サザルナリ

四 素因 傳染病ニ對シテハ人ノ之ニ罹ルベキ素因ヲ必要トス人種ニヨリ一定ノ傳染病ニ對スル感受性ヲ異ニスルアリ又年齢男女ノ別ニヨリ傳染ノ度ヲ異ニスルハ屢々見ル所ナリ又個人ニヨリ感受性ヲ異ニス其ノ原因ハ種々ニシテ一ハ上述ノ侵入門ノ各部ノ健全ナルヤ否ヤニヨリ來ル者アリ一ハ體內ニ於ケル抵抗力ノ例之ハ血液中ノ殺菌作用或ハ喰菌細胞ノ

強弱ニヨリ差ヲ生シ又個人的天然免疫又後天性免疫ノ有無ニヨリテ素因ヲ異ニス要スルニ病ニ罹ルベキ素因ナカルベカラズ素因少キモノト雖モ身體ノ状態ニヨリ感受性ノ増スコトアリ一時的健康ヲ害シタル場合又婦人ノ妊娠シタルトキ或ハ饑餓疲勞ノ甚シキハ何レモ素因ヲ増スモノナリ

上述ノ四個ノ要約ヲ具備スルトキ人ハ甫メテ傳染病ニ罹カルモノニシテ若シ其ノ一ニテモ缺クルトキハ傳染ハ成立セサルモノナリ

### 乙 流行 (Epidemic)

流行トハ同一傳染病患者ノ同時ニ多數ニ生スルヲ云フ流行ヲ來スニ二型アリ第一ハ元來病ノナキ地方ニ他ヨリ病毒カ運バレテ始メテ多數患者ノ發生即チ流行ヲ來スモノナリ第二ハ從來散在性ニ少數ニアリタルモノカ俄然其ノ數ヲ増シ流行状態トナルモノナリ前者ニアリテハ元來住民ハ當該傳染病ニ罹ルヘキ要約ヲ有スルモノナルガ只病毒ノ欠乏ノタメ無事ナリシガ偶々病毒ヲ供給サレタルガタメニ流行ヲ來シタルモノナリ病毒

二種ノ流行狀

ヲ運搬スル主ナルモノハ病者或ハ保菌者ナルカ稀レニハ動物體ニ有タレ或ハ物品ニ附着シテ來ルコアリ

第二型ノ流行ノ場合ニアリテハ其ノ原因前者ノ場合ヨリ複雑ナリ即チ其ノ一ハ病毒ノ毒性ノ俄然トシテ強烈ニ變化シタルカタメナリ從來ハ其ノ毒性ノ弱キタメ抵抗力ノ弱キ人ノミカ稀レニ侵サル、ニ過キザリシモ毒性ノ變化ノタメ罹病シ得ル者ノ増加ニヨリ流行ヲ來スコアリ一ハ周圍ノ状態ノ變化ニヨル即チ住民ノ健康ヲ害スルガ如キ事情季節ノ不順、饑饉等ハ人ノ抵抗力ヲ弱メ病毒ノ氣勢ヲ強ムル者ナリ又土地ノ不衛生状態ニ陷ルカ如キコトハ傳染病ノ媒介者タル動物ノ繁殖ヲ助長シ或ハ病毒ノ地中、水中其ノ他ニ廣ク侵入スル事ヲ助ケ流行病ノ發生ヲ盛ナラシムルモノナリ傳染病ノ流行ニ關シテハ病ノ種類ニヨリ差異アルハ勿論ナルモ種々要約ヲ要スルモノニテ必要ナル事項ハ左ノ如シ

- 一 病毒ノ毒性 毒性強カラザレバ大ニ傳染スルモノニアラズ
- 二 素因アル人ノ多少ニヨル
- 三 氣象的關係 不順ニシテ一般人體ノ健康ヲ害シ又其ノ氣象ガ病毒ヲ媒

流行ニ關スル要約

介スル動物ノ發生ニ増加ヲ來スコトアリ  
 四季節 傳染病ニテ消化器ヲ侵スモノハ消化機能ノ障害サル、夏時ニ多ク、觸接傳染ヲナスモノ又ハ呼吸器ヨリ來ル傳染病ハ冬時呼吸器障害ヲ起シ易キハ又一家ニ籠居スル時季ニ多シ  
 五、土地ノ素因 汚物汚水ノ排除方法ノ良否傳染病毒媒介動物ノ有無  
 六、社界の關係  
 イ、住所家屋ノ良否  
 ロ、貧富ノ差  
 ハ、教育程度  
 ニ、迷信ノ有無并ニ其程度  
 ホ、職業ノ種類  
 ヘ、健康ヲ害スル風俗習慣例ハ飲酒接吻等  
 ト、人ノ健康ヲ害スル出來事、戰爭饑饉、水害其ノ他  
 チ、衛生、防疫規定ノ有無、其ノ程度并ニ實施ノ狀態  
 是等ノ要約凡テ不適當ナルトキハ大流行ヲ來スヲ得ベク之ニ反シテ可良

何故ニ外襲的傳染病カ土着ラサルカ

何故ニ外襲性傳染病カ土着トナルカ

ナルトキハ流行ヲ來スコトナカルベシ歐米ニ於テ傳染病ノ滅シタルハ是等要約ノ可良ニ赴キタル結果ニ外ナラザルナリ  
 傳染病中ニハ一定ノ地方或ハ國ニ對シテ其ノ流行ハ常ニ他國ヨリ輸入サレタル病毒ニヨリテ發生シ其ノ流行ハ一時性ニテ一定時ノノチ消滅シテ其ノ跡ヲ斷チ新ニ輸入サル、ニアラザレバ流行ヲ來サザルモノアリ之ヲ外襲的傳染病(exotische Krankheit)ト云フ日本ニ於ケル「コレラ」ノ如キ病毒ハツネニ支那印度等ヨリ輸入セラレ流行スルモ土着トナルコトナシ其ノ消滅ハ現今ニ於テハ豫防法其ノ宜シキヲ得タル賜ナリト稱スルヲ得ベキモ維新前ノ如キ豫防法ノ皆無ナル時トモ一定時ノ後終ニハ消滅シタルヲ以テ單ニ之ノミニ歸スル能ハズ故ニ此ノ原因ハ素因ヲ有スル人ノ莫クナルト病毒ノ毒性ニ變化ヲ起シテ弱毒或ハ無毒トナルト、病毒ガ體外ニ於テ一定時間以上生活シ能ハザルト又人間同様ニ罹病スル動物ノ生息シ居ラザル等ニヨルモノナリ  
 又從來曾テアラザリシ傳染病ニシテ輸入セラレテノチ土着の傳染病(misch)トナリ斷ヘズ流行スルニ至ル者アリ之ハ前者ト反對ニ病毒ガ人ノ周

園ニ於ケル物質中ニ例ハ土地水其他ノ中ニ永ク生活シ得ル性質ノモノナルカ或ハ動物ニ寄生シ動物間ニ絶ヘズ流行ヲ來シ得ルモノナルカ或ハ特異ノ人體内ニ無害ノ状態ニ寄生シテ所謂永久保菌者ヲ生ジ得ル病毒ナルトキハ始メテ如此キ状態ヲ來シ得ルモノナリ病毒カ土地等ニ侵入シ得ルヲ并ニ一定ノ動物ノ生存ハ衛生設備ノ程度ト密接ノ關係アル者ナルヲ以テ今マデ土着の傳染病アリシ場所モ衛生設備等ノ進歩ノ結果トシテ其性質ヲ失フコトアリ之レニ反シテ從來如此キ患者ナキ地方ガ衛生上設備ノ類廢ノタメ此ノ性質ヲ得ルコトアリ

### 丙 豫防方法 (Prophylaxe)

豫防法ヲ講スルニハ各病原菌或ハ寄生蟲ニ就テ各病毒ノ性質形體、生物學的性狀等ヲ精知シ其ノ所在地、傳染徑路、侵入門并ニ流行ニ關スル周圍ノ狀況ヲ知悉スルヲ要ス然レモ總テノ點ヲ知ルヲ能ハズトモ豫防上必要ナル一二點ヲ精確ニ知ルヲ得バ又有効ニ豫防法ヲ行フヲ得ベシ彼ノ天然痘ノ如キ我人ハ未ダ病毒ノ本體ヲ知ラザレモ人工免疫ニヨリ人々ヲ免疫ニ

ナスヲ得ルノ事實ヲ知ルガタメニ種痘ニヨリ確實ニ豫防法ヲ行ヒ得ルモノナリ傳染ノ成立ニハ病毒、病毒含有物徑路、侵入門并ニ素因ナル一ツノ連鎖アリ此ノ一節ヲ缺クトキハ傳染ハ成立セズ故ニ此ノ連鎖中ノ一ヲ斷テハ傳染ヲ防グヲ得ベキナリ傳染病豫防ノ主旨ハ實ニ之ニ基クモノナリ其ノ何レノ點ニカヲ費スベキヤハ其病ノ性質ニヨルヲハ勿論ナルガ何ノ點ヲ斷ツカ効果最モ大ナルカ又實行ノ難易、經費ノ關係等ニヨリテ決スベキモノナリ此ノ連鎖ノ各點明瞭ナルトキハ只一點ノミヲ嚴重ニ取扱ヘハ豫防ノ效果アリテ豫防法比較的容易ナルモ各點明瞭ヲ缺クトキハ諸點ニ付キカヲ注ガザルベカラザルノ不利アルノミナラズ效果モ亦思シカラザルナリ又同一點ニカヲ注グベキ病ニテモ其ノ精細ノ方法ニ至リテハ病毒ノ性質、病毒存在地、徑路、侵入門等ノ差違、個人的免疫方法ノ種類ニヨリ自ラ異ナラザルヲ得ザルモノナリ

一 外襲的傳染病 (exotische Krankheit) 即チ自國ニナクシテ時ニ外國ヨリ輸入シテ流行スル傳染病ニ對シテハ土着の傳染病ト異ナリ特別ノ方法ヲ講ゼザルベカラズ即チ國境ニテ喰止ムルノ方法ヲ採ラザルベカラズ之ヲ國境

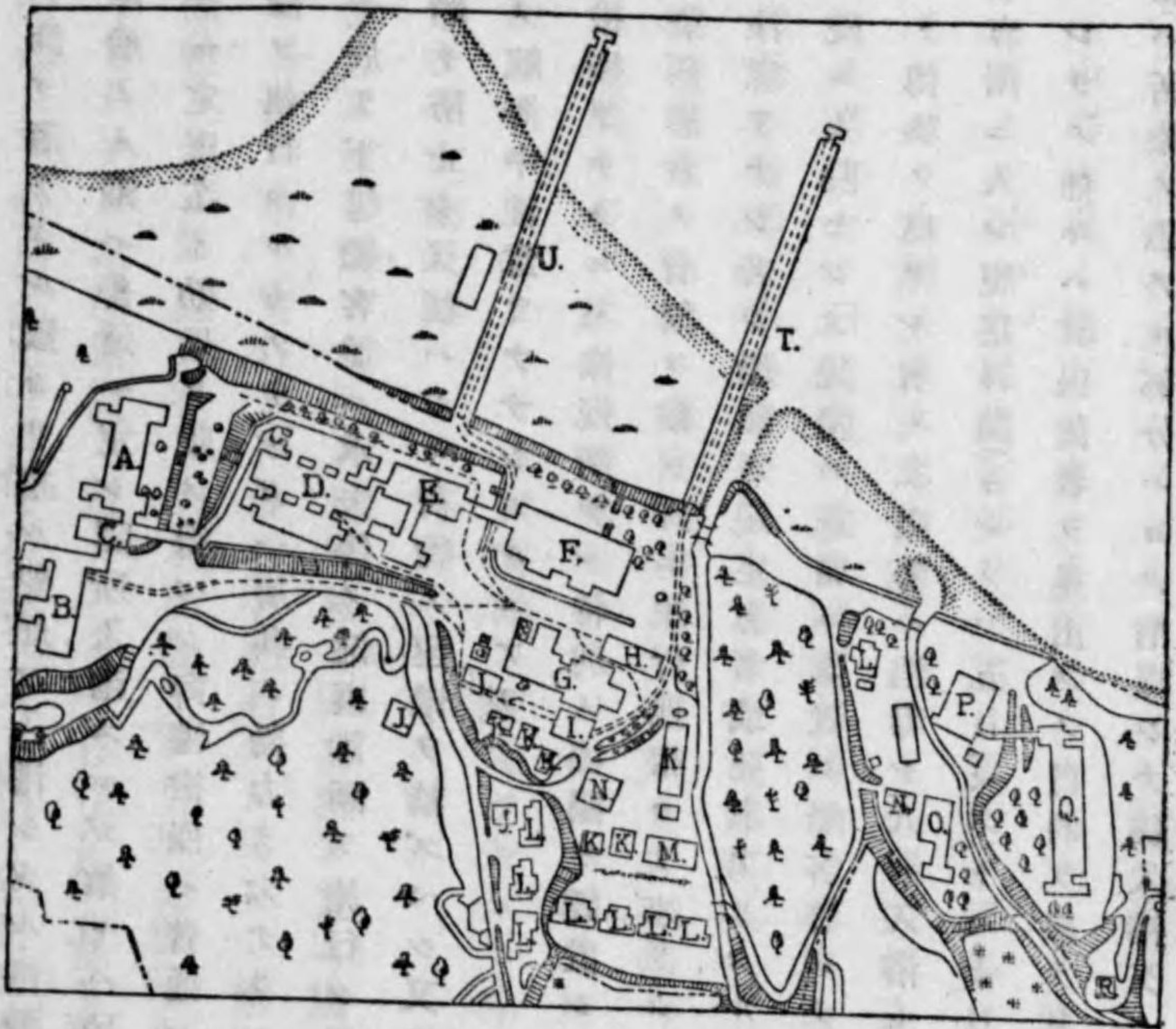
檢疫(Quarantine)ト云フ(クワランテエン)ナル辭ハ昔十五世紀頃「ペスト」流行ノタメ地中海沿岸ノ都市ニテハ東方「ペスト」地方ヨリ來リタル船舶ハ其病ノ有無ニ關ラズ四十日間船客等ヲ一定ノ場所ニ收容シ其健康ナルヲ認ムルニアラザレバ入國ヲ許サザルヨリ來ルト)外襲的傳染病ト見做サル、病ハ國ニヨリ異ナルハ云フ迄モナシ歐洲各國ニテハ主トシテ「コレラ」「ペスト」「黃熱」ヲ指示ス吾邦ノ海港檢疫法ハ「コレラ」「天然痘」「ペスト」「黃熱」「猩紅熱」ヲ外襲病ト指定ス(其他ハ臨時ニ指定シ得ベキ規定トナル)然レモ「猩紅熱」ハ今日ニテハ内地ニ頗ル多ク之ヲ外襲病トナスハ多少不穩當ノ觀ナキアタハズ之ハ宜ク改正スベキ者ナランカ又「黃熱」ハ規定サル、モ今日マデ一度モ襲來シタル事ナキガ如シ

國境檢疫ニ二ノ別アリ一ハ地ヲ接スル隣國ノ互ニ國境ニ於テ之ヲナス者ナレドモ之ハ殆ド實行スル能ハズ施行スルモタゞ形式ノミニテ効果ナシ長キ國境ヲ有スル處ニテハ到底隣國人ノ入り來ルヲ防グ能ハザルナリタメニ今日ニテハ歐洲諸國ニ於テハタゞ移住民ノ如キ不衛生的ナル下等旅客ヲ輸送スル特別列車ニ就キ檢疫スルニ過ギズ一ハ海港檢疫(Sequarantine)

ニシテ海ヲ隔テタル國ヨリ來ル船舶ヲ入港シタル港灣ニ於テ檢疫スル者ナリ船舶ノ入港ハ普通一定シ隨所入港スルガ如キハ殆トナキ者ナルヲ以テ之ハ一定度迄ノ効果ヲ收メ得ベシ海港檢疫ハ普通ハ到着シタル港ニ於テ檢疫ヲ執行スルモノナルガ一層其ノ効力ヲ大ナラシメントスルニハ出發港ニ於テ下等船客並ニ水夫等ノ健康診斷ヲ施行シ患者ハ勿論疑似患者ノ上船ヲ防止シ又疑ハシキ荷物ノ運搬ヲ禁ズベシ又船舶ニハ船醫ヲ乗船セシメ航海中注意ヲナサシムルニアリ

海港檢疫ヲナスニハ檢疫所ナル特別ノ機關ヲ設置シ入港ノ際ハ各船ニ付キ傳染病患者ノ有無ヲ檢シ殊ニ流行地帯ヨリ來リタル船舶ニ付キテハ一層ノ注意ヲナシ若シ船舶ニ規定患者或死者アリタルハ患者ハ檢疫所處屬病院ニ入院セシメ屍體ハ適當ニ處置シ船客等ニテ患者等ト密接ノ關係アリテ傳染ノ虞アル者ハ衣服等ハ消毒シ人ハ入浴セシメテノチ檢疫所内ノ收容所ニ入レ規定日間(コレラハ五日「ペスト」ハ十日間)其健康状態ヲ監視ス「コレラ」ノ如キハ其保菌者ヲ見出スノ目的ヲ以テ其糞便ヲ檢査ス船并ニ荷物ハ汚染ノ恐アル部分ハヨク消毒シテ後入港又ハ出港ヲ許スベシ而シ

第一七圖  
神奈川縣長濱檢疫所圖



- A 第一號停留所
- B 第二號停留所
- C 停留所事務所
- D 第一號浴場
- E 檢疫所事務所
- F 第二號浴場
- G 汽罐室、消毒室、藥物消毒室及煮沸消毒室
- H フォルマリン消毒場
- I 未消毒物品仕譯場
- J 貯水池(三ヶ所)
- K 納屋(六棟)
- L 附屬舍(八棟)
- M 備人控室
- N 倉庫(二棟)
- O 檢菌室
- P 病院事務所及回復期患者收容室
- Q 病室
- R 屍體置場
- S 火葬場(圖中ニナシ)
- T 未消毒棧橋
- U 既消毒棧橋

テ「ベスト」ニ至リテハ如此キ船ニハ「ベスト」鼠ノ存在スルヲ以テ殺鼠法ヲ講ズベシ今日一般ニ行ハル、ハノホト法ニヨリ酸化炭素ヲ船倉ニ送ルニアリ(特別船ニ一定装置ヲ設ケ「コークス」ヲ燒キ其ノ燃燒瓦斯即チ酸化炭素、炭酸、空氣ノ混シタルヲ水ニテ洗ヒ送氣装置ニヨリ一管ヲ通ジテ船倉ニ送ル者ナリ)一定時ノ後船倉ヲヨク換氣シ酸化炭素ヲ充分ニ驅逐シテノチ人夫ヲシテ鼠屍ヲ探ガサシメ「ベスト」菌ノ存在ヲ檢スベシ此ノ方法ハ往々人夫ニ中毒ヲ來スノ恐アルヲ以テ注意ヲ要ス又黃熱アリトセバ之ハ一種ノ蚊(即 *Stegomyia fasciata*)ノ媒介ニヨルモノナレバ之ガ驅除ヲナサシムベシ「コレラ」患者アリタル船舶或ハ「コレラ」流行地方ヨリ來リタル船ニハ乘客等ニ保菌者アルヲ以テ港灣内ニ糞便ノ排棄ヲ禁ズル事必要ナリ

疑似患者等ノアリシ場合ニハ其ノ決定スルマデ適當ノ監視ヲ要シ相當ノ處置ヲ取ルベク又船客等ニ是等ノコトナシトスルモ其ノ船カ「ベスト」流行地方ヨリ來リタルトキハ殺鼠法ヲ行ヒ又鼠ノ棧橋其ノ他ニ上陸スルヲ妨クル設備ヲナス「ベスト」防疫上安全ナリトス

現今交通貿易ノ盛ニナリタルガタメ海港ニ入港スル船舶旅客並ニ荷物多





ヲ知リシ場合ニハ已ニ多數ニ傳搬シ如何トモナス事能ハザルニ至ル事アリタメニ適當ノ手段ヲ以テ速ニ届出ツル方法ヲ講ズベシ

3 一患者ヲ發見シタルキハ患家ノ周圍或ハ患者ノ關係者ヲ調査スベシ之レニヨリ新患者或ハ保菌者ヲ發見シ處置ヲ行ヒ得ルヲ少カラズ

4 病毒試驗所ノ設置 傳染病ナルヤ否ヤヲ確定スルニハ細菌學的方法ニ依ラザルベカラズ傳染病ハ殊ニ速ニ決定スルヲ要ス遲延ハ防疫上大ナル不利ヲ來ス此ノ目的ヲ達スルニハ適當ナル試驗所ヲ適當數ニ設置セザルベカラズ之ナクバ1乃至3ノ勞ヲ取ルモ更ニ効ナカルベシ

尙ホ歐洲諸國ニ於テ行ハル、強制屍體檢索法ハ傳染病ヲ早ク發見スルニ大ニ必要ナルモノナリ

(口) 患者疑似患者並ニ傳染ノ疑アル者ノ隔離

空氣傳染ヲナス傳染病患者ハ勿論排泄物等ヨリノ危險ヲ防クニモ患者等ヲ隔離シ他ト接觸セシメサルヲ可トス疑似患者ニアリテモ決定迄ハ隔離スルヲ以テ一般ニ對シテ安全ナリトス又傳染病者ニ近キ關係アリシ者モ已ニ病毒ニ感染シ居ルヤ測ルヘカラサルヲ以テ隔離スルヲ可トス今日ニ

於テ傳染嫌疑者ノ隔離セラル、ハタマ「ベスト」ト「コレラ」ノ場合ナルモ隔離中ニ發病スルモノ少カラズ又「コレラ」ニ就テハ發病者ノ外ニ比較的多數ノ保菌者ヲ發見スルモノナリタメニ外觀健康者タル嫌疑者ノ隔離ハ往々苦情アリト聞クモ又已ムヲ得サルナリ其ノ何迄ノ範圍ノモノヲ隔離スベキカハヨク患家ノ状態ヲ見テ範圍ヲ定メ無益ノ人ヲ隔離シ必要ナルモノヲ逸セサル様注意スベシ

隔離ハ出來得ベクンハ患者ナレハ傳染病院ニ嫌疑者ナレハ一定ノ建物ニ隔離スルヲ最モ可トス不得已ハ臨機ノ方法ヲ取り適當ノ場所ニ移スベシ要ハ隔離ノ主旨ニ反セサルニアリ隔離日數ニ至リテ患者ナレハ全快後傳染ノ虞ナキマテ病院ニ置クベシ「コレラ」「チフス」「赤痢」如キハ症候的全快ヲナスモ後永ク糞尿ニ病毒ヲ排泄スルモノナレハ糞尿検査ノ上全ク排泄止ミタルノチ出院セシムベシ此ノ排泄ハ不規則ナルヲ以テ只一回ノ検査ニ陰性ナリトテ直チニ排泄ナシト斷スベカラス二―三回ハ必ス繰リ返シ之ヲ確メサルベカラス

傳染嫌疑者ハ隔離シテノチ該當傳染病ノ潜伏期間ニ相當スル期間留メ置

クモノトス今日ニテハ「ベスト」ハ十日間「コレラ」ハ五日間ト規定セラル隔離  
 中同室者ヨリ患者或ハ保菌者ヲ出スコトアレハ更ニ其ノ日ヨリ同一期間  
 留置サル、モノナリ  
 又隔離セストモ患者ノ家族或ハ關係者ハ一定時間ハ特別注意ノ許ニ置カ  
 サルベカラス

患者ト接近禁  
 止

(ハ)無益ニ患者ニ接近スベカラズ 傳染病毒ニハ所謂空氣傳染ヲナス者  
 換言スレハ患者ノ附近ノ空氣中ニ小水滴ニ附着シテ浮遊スルモノ少カラ  
 ス總テ呼吸系ヲ侵シテ咳嗽ヲ伴フモノハ之ニ屬ス肺「ベスト」肺炎、肺喉頭結  
 核、チフテリ「麻疹」インフルエンザ「百日咳」ノ如キ之ナリ又剝脫表皮、痂皮片  
 等ニ附着シテ患者附近ノ空氣中ニ浮遊スルモノアリ痘瘡、猩紅熱之ナリ又  
 患者ノ附近ニ徘徊スル虱蚤等ニヨリ傳染スルモノアリ再歸熱、發疹、チフス  
 等之ナリ又排泄物ト共ニ患者ノ體外ニ出ツル病毒ハ患者ノ附近ニ在ル物  
 品ニ附着スル場合多シ爲ニ患者ニ接近セサルヲ安全トス法定傳染病ニア  
 リテハ規定ニヨリ接近スルヲ得サルモ他ノ傳染病ニアリテハ然ラス一定  
 ノ注意ヲナシテ接近スルハ左程危険ナキモ然ラサレハ危險モ亦少カラ

サレハナルベク接近セシメザルヲ要ス不得已場合ニハ適當ノ注意ヲナシ

テ接近スベシ適當ナル方法ヲ講スレハ容易ニ傳染スルモノニアラズ

(二)群集集會等ノ禁止 病人ノアル處ニ群集スルハ病毒ヲ四散セシメ流  
 行ヲ擴大スルノ虞大ナリ又病人ナキ處ニ集合スル「モ例」之劇場寄席其他  
 興業、祭禮等ハ群集ノ中ニ發病初期ノ者アリ或ハ輕度ノ者アリ或ハ保菌者  
 アルヤ知ルベカラスタメニ傳染シ之ヲ廣ク他ニ擴クル「ナント」云フ能ハ  
 ス又健康ヲ害スル原因トナリ傳染病ノ誘因トナル虞アリ爲ニ傳染病流行  
 中ニハ之ヲ禁スベシ既ニ流行盛トナリテノ後ノ禁止ハ遅レタル者ニテ始  
 メ僅ニ發生シタル「ル」ニ行フコソ功アル者ナレ

(ホ)消毒法 之ハ第十一篇ニ精ク記スベシ

(ヘ)病獸并ニ媒介者タル動物ノ驅除

病獸又媒介者タル動物ノ驅除ハ一定ノ傳染病ニ對シテ必要ナル豫防法ナ  
 リ

病獸輸入ヲ防クタメ海港檢疫亦必要ナル「ア」アリ英國ニテハ犬ヲ輸入スル  
 トキハ一定時之ヲ檢疫所ニ留置シ狂犬ニアラザル「ア」ヲ確メサレハ内地ニ

入レス又狂犬病豫防ノタメ犬ニ免疫ヲナシ其ノ發病ヲ防クガ如キ亦有効ナルモノナリ

「ベスト」鼠ハ「ベスト」傳染ノ源トナルモノナリタメニ「ベスト」地方ヨリ來リタル船舶ニ就テハ船内ニ於テ驅鼠ヲ行ヒ鼠ヲシテ船ヨリ上陸セシムベカラズ又「ベスト」流行時ニ於テ鼠ヲ捕フルハ一ハ病原ヲ撲滅シ一ハ之ヲ以テ病毒ノ分布ノ情態ヲ知リ一ハ鼠數ヲ減シテ何分カ傳播ノ度ヲ少フスルノ利アリ倉庫等ニ於テ鼠ヲ捕フルニ理想的ノ方法ナク或ハ毒瓦斯ヲ以テシ或ハ殺鼠劑ニヨリ或ハ捕鼠器ヲ用ヒ或ハ熟練ナル人夫ヲシテ之ヲ手捕セシム病毒濃厚ナル倉庫等ニ於テ捕鼠方法ヲ行フ場合ハ病鼠ノ逃去ヲ防グタメ亞鉛塀等ヲ繞ラスヲ普通トス又捕鼠ト同時ニ鼠族ニ密生スル蚤ヲ殺スニ必要ナリ殺鼠劑トシテ燐製劑最モ有效ニシテ亞砒酸製劑ハ劣ルモノ、如シ鼠チフス菌製劑(例ハ「ラチン」*Ratein*)アルモ野鼠ニハ效アランモ家鼠ニハ大ナル作用ナキカ如シ倉庫等ノ殺鼠瓦斯トシテハ硫化水素、二硫化炭素用ラル之ハ殺鼠ノ外殺蚤ノ效アリトシテ近來用ラル然レニ二硫化炭素ハ引火爆發ノ危險アリ酸化炭素、靑酸ハ殺鼠力等ハ大ナルモ周圍ニ危險ヲ及ホ

スヲ以テ使用ニ際シテ大ナル注意ヲ要スベシ靑酸製劑トシテ「チクロン」*B* (*Zyklon B*) 用ラル靑酸ハ食物ノ種類ニヨリ吸收セラル、ヲ以テ食品倉庫ノ驅鼠ノ場合ハ特ニ注意スベシ倉庫等ニ於ケル鼠蚤ヲ殺スタメニ石油乳劑(石油一勺石鹼四五匁溫湯一勺ヲ混和攪拌シテ更ニ溫湯九合八勺ヲ加ヘタルモノ)ヲ撒布スルモ大ナル作用ナキカ如シ

病毒ノ患者血液内ニ現出スルモノニ就テハ蚤、虱、蚊、南京蟲等ノ驅除ヲ行フベシ是等蟲類ニ對シ一般的ニ效アルモノハ除蟲菊トス吾國ニ栽培サル、モノハダルマチャ産(白花)ベルシヤ産(赤花)ナリト赤花ハ産額量少ケレハ效カハ強シト云フ

虱ハ頭虱 (*Pediculus capitis*) 衣服虱 (*P. vestimentis*) 及毛虱 (*Phthirus inguinalis*) 等トス衣服虱ハ熱ヲ以テ驅除スルヲ可トス六五度ノ乾熱ニテ成蟲ハ十五分間ニテ死シ(血ヲ吸ハサルモノハ尙ホ速ナリ)卵ハ一時十五分ニテ死スト沸湯ハ短時間ニテ兩者ヲ確實ニ滅殺ス他ノ虱ハ藥物ヲ用ユ一般ニ用ラル、モノハ水銀軟膏、石油、ベンチン、クレゾール、石鹼、ラウソファン (*Lausophan-Ketohexamethylen*)、グロボール (*Globol-Paradichlorbenzol*) 等ナリ

「パリス・グ  
リーン」トハ  
Schweinfurter  
Green ノトナ  
リ

南京蟲ノ驅除ハ頗ル困難ナリ壁床竝ニ寢臺其他ノ器具ノ細キ間隙ノ間ニ  
逃レ住ムヲ以テ捕獲スルコト難シ洋風ノ室ニハ青酸瓦斯ヲ用ユ又熱蒸氣ヲ  
南京蟲ノ巢屈ナル間隙ニ吹キ込ムコトハ效アルカ如シ寢臺等ノ間隙等ニハ  
硝酸ヲ滴下スルコトアリ要スルニ床壁等ニ間隙ナキコトカ最良方法ナルベシ  
蚊ニ就テハ其發生ヲ防クヲ第一トス家屋ノ周圍ニ水溜ヲ作ルベカラス又  
蚊ノ幼蟲即チ子子ヲ殺滅スベシ石油ヲ少量ニ水面ニ流セハ之ヲシテ窒息  
セシム「パリス・グリーン」「サルビノール」(Paris-green, Salvinol)モ又功アリ「サルビ  
ノール」ヲ少量ニ混スル水ハ牛馬等ノ之ヲ飲ムモ害ナシト  
蠅ハ傳染病ノ傳染ニ大ナル關係アルモノナリ病毒ハ單ニ四肢羽翅等ニ附  
著シテ居ルノミナラス其ノ蠅糞中ニモ病毒ヲ發見スルコトアリ其種類多ク  
レモ特ニ注意スヘキハ家蠅(Musca domestica)ナリトス蠅ヲ捕獲スルニハ種々  
捕蠅器ヲ用ヒ又ハ蠅取糞ヲ用ユ「コロホニウム」五ニ「リチヌス」油三六、蜜一  
ニヲ混シ攪拌シタルモノヲ用ユ又毒物ヲ食ハシメ之ヲ殺スコトアリ亞砒酸  
ト砂糖ヲ混シテ色ヲ附ケタルモノ又ハ亞砒酸溶液ニ麥酒ヲ混シタルモノ  
有效ナルカ如シ捕獲ヨリ一層必要ナルハ蠅ノ發生ヲ防止スルニアリ蠅ハ

汚物ノ表面ニ子ヲ生ムモノナリタメニ家屋ノ周圍ヲ掃除シ糞便塵芥食物  
ノ殘片等ノ存在ヲ防カハ自カラ其數ヲ減スルヲ得ヘシ又汚物アリトモ石  
灰乳「クロー」石灰其他消毒藥等ヲ其上ニ撒布セハ蠅ノ子ヲ生ミ付クルヲ  
防クコトヲ得ヘシ

蠅ノ幼蟲又ハ卵ヲ殺スニハ四鹽化炭素ヲ加ヘタル石油乳劑ノ如キヲ用ユ  
ベシ又厩ノ敷藁ノ如キハ之レニ硼砂(三〇〇—三五〇分ノ一)ヲ加ヘヨク攪  
拌スレハ之ヲ殺スコトヲ得フ又敷藁等ノ盛ニ酸酵シテ發熱シタル(六〇—六五  
度)モノ、中ニ蠅卵等ヲ有スル敷藁ヲ埋ムレハ其ノ熱ニヨリテ之ヲ殺スコトヲ得  
蠅蚊其他ノ蟲類ノ入ルヲ防グタメニ窓等ニ金網ヲ張ルコトアリ便所其ノ他  
ニ於テハ著シク效果アルモノナリ勿論目ノ大サニ注意ヲナササルベカラ  
ス獨逸ニテハ蠅防止ノタメ一二五密迷ノ目ノモノ(「ツオル」ニ金線十七本  
ノモノ)ヲ用ヒアメリカニテハ一七五密迷ノ目ノモノヲ用ユ一二五密迷ノ  
目ノモノハ蚊ノ侵入モ防グコトヲ得レモ一七五密迷ノ目ノモノハ蚊ノ侵入  
ハ完全ニ防止スルコト能ハスト云フ  
血液中ニ病毒ノ循環スル傳染病ニアリテハ蚊帳ヲ用ヒ蠅蚊ヲシテ患者ニ

近カシメサルコ傳染豫防上大ニ必要ナリ  
要スルニ蚤、虱、南京蟲、蠅、蚊ノ如キ蟲類ノ發生ハ不潔ト密接ノ關係ヲ有スル  
モノナリ衣服室内周圍等ヲ清潔ニシ汚物塵芥汚水等ヲ停滯セシメサル時  
ハ大ニ其發生ヲ防止スルヲ得ルモノナリ

(ト)豫防接種 方法簡單ニシテ效果確實ナルモノアレハ豫防法中最モ可  
ナルモノナリ彼ノ種痘ノ如キハ實ニ之レニ屬ス今日ニテハ天然痘豫防ハ  
タ、種痘ノミニテ他ニ何等注意ナクシテ其ノ目的ヲ達スルヲ得他ノ傳染  
病ニ對シテ如此優秀ナルモノナシ他ノ方法ハ其ノ結果確實ナラス又効力  
モ永續セス尙ホ其ノ方法モ簡單ニアラスシテ反應一般ニ強ク又多少ノ危  
險ヲ伴フタメニ種痘ノ如ク一般的ニ行フ能ハス特別ノ場合ニ之ヲ行フニ  
過ギス「ベスト」コレラ「チフス」等ノ豫防免疫ハ殊ニ其危險ニ遭遇スル人ニ  
ミ用ヒラル身ハ安全ノ地ニ在リ之ヨリ危險ノ場合ニ葢マントスル人ニハ  
自働免疫ヲ行ヒ一定ノ免疫程度ニ達シテノチ往クヲ可トス現ニ危險地ニ  
在ルモノハ他働免疫又ハ混合免疫「ワクチン」ト免疫血清ヲ同時ニ注射スル  
コノ安全ナルニ若カス「ワクチン」接種ヲ受ケタル人ハ保菌者トナリ易シ此

ノ點ハ又注意スベキトス普通免疫法ハ其感染ニ先チ行フニアラザレバ  
効ナキモノナルガ狂犬病豫防接種ハ已ニ咬傷ヲ受ケテノチ行ハル、モノ  
ナリ彼ノ病毒ノ發育遅々ナルニ係ラズ豫防注射ニヨル免疫ハ速ニ生ズル  
ヲ以テ罹病ヲ免ル、効果アルモノナリ種痘ノ如キ傳染後接種スルトキハ  
發病ハ止ムル能ハザルモ經過ヲ可良トスル功アリ

一、「チフス」豫防接種

二四時間「チフス」培養一〇白金耳ヲ一〇ccノ〇・八五%食鹽水ニ混ジ六〇度  
ニテ一時間殺菌シ之レニ〇・五%ノ割合ニ石炭酸ヲ加ヘ之ヲ材料トシテ用  
ユ、其量ハ始メ此ノ一ccヲ注射シ十日乃至十四日ヲ經テ更ニ二ccヲ注射ス  
又反應ヲ少クスルタメ七―十四日ノ間隔ヲ措キ三回ニ〇・五、一〇、一・五ccヲ  
注射スルコトアリ  
其反應ハ人ニヨリ大差アリ一般ニハ注射部ニ數日間浸潤アリ壓ニヨリ少  
ク痛ヲ感ズ體温上昇シ全身倦怠頭痛眩暈等アリ一―二日乃至數日ニテ消  
散ス有効期限ハ二―三回注射ニヨリ半年乃至一年ナルベシ  
近來又感作「ワクチン」トテ生菌ニ免疫血清ヲ働カシメノチ遠心沈澱セシメ

ナルベク低温  
ニテ殺菌スル  
程反少ク又  
菌ヲ洗ヒ培養  
基等ヨリ混去  
ル蛋白ヲ除去  
シタルモノハ  
反應小ナリ

食鹽水ニテ洗ヒ〇五%石炭酸ヲ加ヘタルモノ用ラル反應少シト

二 「ベスト」豫防接種

二日間培養シタル「ベスト」寒天培養十二密瓦(全斜面)ヲ採取シ之ヲ〇八五%食鹽水ノ三ccニ混ジ六五度ニテ一時間熱シ〇五%ノ割合ニ石炭酸ヲ加ヘ數日ノチ其ノ無菌ナルヲ證明シテ用ユ全量ヲ三乃至四回ニ分チ注射ス反應ハ注射局部ハ腫脹發赤疼痛アリ、淋巴腺ノ腫脹ヲ來シ一般的ニハ發熱頭痛、全身倦怠ヲ起ス而シテ其ノ度ハ人ニヨリ大差アリ有効期間ハ三―六ケ月ナルガ如シ

三 「コレラ」豫防接種

一〇白金耳ノ二四時間「コレラ」培養ヲ一〇ccノ〇八五%食鹽水ニ混ジ一時間六〇度ニ熱シ〇五%ニ石炭酸ヲ加フ此ノ一ccヲ注射用トス七一〇日ヲ隔テ第二回注射ヲ行ヘバ一層免疫度ヲ高ムルヲ得ベシト反應ハ「チブス」「ベスト」豫防接種ニ比スレバ弱ク注射部ニ少ク浸潤ヲ起ス時トシテ體温上昇頭痛、倦怠、食思缺損等アリ人ニヨリ其度ヲ異ニスルコト他豫防液ニ異ナラズ有効期間ハ約六ケ月ナランカ

加熱セズシテ唯〇五%石炭酸ニテ殺菌シタルモノ或ハ免疫血清ニテ感作シタルモノヲ有効ナリト唱フルモノナリ

四 種痘

以前ハ人化牛痘苗(humanisierte Lympher)ヲ用ヒタリ即チ牛痘ヲ小兒ニ接種シ之ヨリ得タル痘苗ヲ他兒ニ接種スルノ法ナリ之ハ小兒ノ微毒等ヲ他兒ニ傳染セシムルノ危害アルヲ以テ今ハ用ラレズ今日用ラル、モノハ二種ニテ即チ復種牛痘苗(Retrovaccinationslymphe) 人化牛痘苗ヲ犢牛ニ接種シ得タル痘苗及ビ牛痘苗(animale Lympher) 天然牛痘苗ヲ犢牛ニ接種シ得タル痘苗ナリ種痘スルニハ皮膚ヲ消毒シ種痘針ヲ以テ淺ク出血セザル程度ニ表皮ヲ切リ痘苗ヲ塗擦ス以前ハ刺種ヲナシタルカ確實ナラザルガタメ前法ノ賞用セラル、ニ至レリ反應ハ普通接種部ニ止マリ其ノ有效期間ハ平均十ケ年ト稱セラルタメニ我國現行ノ種痘法ハ初生兒ハ一年以内ニ第一回種痘ヲ數ヘ年十歳ニ第二回種痘ヲ行フベシト規定セラル然ルニ第二回種痘ノ際善感數多キガタメ第二回種痘ヲ一層早クスベシト唱フルモノ多シ

五 狂犬病豫防接種

傳染病豫防法

和蘭等歐洲ニ起  
テハ種痘後一  
種ノ腦炎ヲ起  
スコト往々ア  
リトテ大ニ世  
人ノ注意ヲ喚  
起セリ

固定毒(Fixenvirus)ヲ兎ニ腦接種ヲナシ斃ル、ヲ待チ脊髓ヲ無菌的ニ取り出シテ直チニ苛性加里ノ乾燥壘内ニ納メテ之ヲ乾燥ス乾燥後時日ヲ更ルニ從テ其毒性ヲ減シ八日後ハ全ク無毒トナル毒性ノ弱キモノ即チ永ク乾燥シタルモノヨリ漸次強毒ノ材料ヲ反復注射スルモノナリ其ノ方法種々アルモ傳研ノ方法ハ左ノ如シ但シ一回ノ注射量ハ乾燥脊髓〇五仙迷ヲ二ccノ食鹽水ニ乳劑トナシタルモノニテ注射日數ハ總計十八日間ナリトス

豫防注射ノ日順

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
3	3	2	2	1	3	2	1	1	3	2	1	1	3	2	1	1	1

使用接種材料ノ乾燥日數 3 3 2 2 1 3 2 1 1 3 2 1 1 3 2 1 1 1

犬ノ狂大病ヲ豫防センガタメ犬ニ對スル豫防接種行ハル

(チ)食物ノ注意食物ニハ元來之ヲ保有スルモノアレモ種々ノ原因ニヨリ病毒ニ汚染シ食物ノ種類ニヨリテ此ノ中ニ於テ増殖スルヲアリタメニ之ニヨリ汚染セサル様注意スベシ危險ノ虞アル場合ハ煮沸等ニヨリテ之ヲ消毒シタルモノヲ用ユベク加熱スル能ハサル場合即チ生ニテ食スルヲ可トスル野菜ノ如キハ、クロールニテ消毒シ更ニ冷却シタル煮沸水ニテ洗フベシ

(リ)保菌者ノ處置 保菌者ハ患者同様ニ取扱フヲ可トス然レモ數年ニ渡

牡蠣ニ附着スルチフス菌ハ十萬分五ノ「クロール」液ニテ殆ト滅殺セラル(確實ニテ)野果實等ノ表面ニ附着スルチフス菌ハ十萬分三ノ「クロール」液ニテ三十分間ニテ死滅ス(松岡、白石)

リテ病的菌ヲ排泄スルモノニアリテハ其處置頗ル困難ニシテ今日ニ於テハ排菌ニ對スル治療法ナシ去リトテ永久ニ病院ニ收容スルヲ不可能ナレバ保菌者ニ關スル注意ヲ當人ニヨク理解セシメ一定ノ場所以外ニハ排便セシメズ糞便ハタマチニ消毒セシメ衛生警察監視ノ下ニ置クヨリ外ナカラシカ

(又)身體外ニ於ケル病毒ノ注意 病毒ハ水汚水汚物食物土地空氣其ノ他ノ中ニ屢存在シ傳染ノ原因ヲナスコトハ明瞭ナル事實ナリタメニ病者ノ體內ヨリ之レニ移行セザルノ注意ヲナシ且ツ已ニ之ニ移行シタルトキハ是等ノモノヨリ健康者ヲ侵サザル様方法ヲ講ゼサルベカラズ即チ給水法下水溝汚物排除ノ方法ヲ完全ニナシ且食物ニ關スル諸般ノ衛生方法等ニ注意スルヲ最モ必要ナルヲナリ是等ノ事項ニ關スル精細ハ本篇衛生各論ヲ參照スベシ

(ル)身體強健法 吾人ノ身體ニハ天與ノ抵抗力アリ身體強健ナレバ抵抗力ハ愈強キモノナリタメニ傳染病流行時ニ於テハ強健ニ保ツヲ務ムル事殊ニ必要ナリ



(ヲ) 傳染病豫防ニ關スル規定並ニ其ノ運用

前述ノ諸項ノ豫防法ノ實行ハ各人ノ衛生思想極度ニ發達セバ自カラ行ハル、管ナルモ之ハ到底望ムベクモアラザレバ一定ノ法規ヲ設ケ之ヲ運用スルニアラザレバ到底目的ヲ達スベカラズ法規アリトモ之ヲ運用スル機關ヲ平日ニ於テ備フルニアラザレバ徒法タルニ終ルベシ是等ノモノハ實際的ニシテ各國ノ事情ニ適合スルモノナラザルベカラザルナリ我邦ニ於テ現ニ施行サル、傳染病ニ關スル規定ハ種痘法、傳染病豫防法、海港檢疫法、學校傳染病豫防法、結核豫防法、癩豫防法、トラホーム豫防法、花柳病豫防法等ナリ

(ウ) 衛生思想ノ涵養 個人ノ衛生思想發達セバ傳染病ヲ防グコト易クノミタメニ教育其ノ他ノ方法ニヨリ之ガ發達普及ヲ謀ルベシ  
要スルニ防疫ノコタル各傳染病ニ就キ其ノ場合適當ナリト思考スル方法ヲ選擇シ一ハ個人ノ衛生思想ニ訴ヘ一ハ法規ニヨリ之ヲ勵行シ其ノ目的ヲ達スベキナリ

第十一篇 消毒法 (Desinfektion)

傳染病トシテ今日數ヘラル、モノ其ノ數尠ラズ而シテ一ニノ原始蟲ニ因スルモノアリト雖他ハ總テ細菌ニ因リ發病スルモノナリ而シテ之ガ人ニ傳染スルハ患者ヨリ直接ニ傳染スルコトナキニ非ラザルモ多クハ患者ヨリ出デシ病毒ガ食物、水、衣服、家具等其ノ他ヲ介シテ間接ニ他人ノ體內ニ侵入スルモノトス故ニ適切ナルハ病毒ノ消毒換言スレバ之ヲ含有スル物體ノ消毒ニアリ未ダ他ニ傳播セザルニ先チ病毒ヲ消毒セバ以テ傳染病流行ヲ抑止スルコトヲ得ベシ

持續的消毒法

終結的消毒法

傳染病患者ノ發生ニ際シ消毒ヲ行フニ當リテハ患者ノ在ル間ハ持續的消毒法 (fortlaufende Desinfektion) ヲ行ヒ以テ病毒ノ散逸ヲ防ギ患者ノ送院、全快或ハ死去ノ後ニハ其居室用具等ノ終結的消毒法 (Schlussdesinfektion) ヲ行ヒ以テ病毒ノ永ク保存セザルコトヲ注意スベシ、持續的消毒法ヲ行フニハ各傳染病ニ就キテハ病毒ノ外ニ排泄サルル徑路ハ明ナルヲ以テ病毒ヲ含有スルモノ或ハ其恐アルモノハ(糞尿、喀痰、膿汁、嗽ヒ水、襯衣、上敷布、食器、手拭等ノ類直

チニ適當ノ方法ニヨリ消毒シテ室外ニ出シ或ハ外ニ泄レサル様包裝シテ  
 他ニ送り消毒スベシ終結的消毒ニアリテハ患者ノ使用シタル器具ハ勿論  
 其ノ居室全體ヲ消毒スルモノナリ第一ノ場合ニアリテハ看護者ニヨリテ  
 モ行フヲ得レモ第二ノ場合ニアリテハ其ノ完全ヲ期スルタメ専門之ニ從  
 事スルモノノ手ニ托スルヲ可トス歐米ニ於テハ盛ニ消毒技術者ノ養成ニ  
 カヲ用ヒ適任者尠カラズ

一 消毒法ニ關スル注意

消毒法ニ就テ注意スヘキコトハ左ノ如シ

- (イ) 消毒ハ確實ナルヲ要ズ消毒確實ナラサレハ豫防ノ効ナキヲ勿論ナ  
 リ
- (ロ) 消毒ハ迅速ニ施行ヲ結了シ得ルヲ要ス消毒ヲナス物品ハ多クハ人  
 々ニ日用缺クヘカラサルモノナルガ故ニ可及的速ニ消毒シ再ヒ用ニ  
 供セサルヘカラズ
- (ハ) 消毒方法ハ簡單ニシテ容易ニ行ヒ得ヘキモノタルヲ要ス
- (ニ) 消毒ニ用フル原料ハ廉價ニシテ至ル所容易ニ手ニ入ルヘキモノタ  
 ル

消毒法ニ對ス  
 ル注意

ルヘシ

- (ホ) 消毒ニ用フル原料ハ少量ナレハ人ノ健康ヲ害スルコトナクシテ消  
 毒後久シク物品ニ附着セサルモノタルヲ要ス
- (ヘ) 消毒ノ力ハ唯物品ノ表面ニミ作用セス深部ニマテ浸透スルモノ  
 ヲ可トス
- (ト) 消毒ノ方法ハ消毒物品ヲ毀損セサルモノタルヘシ
- (チ) 物品ノ毀損ヲ防ク爲メニ物品ノ異ナルニ從ヒ消毒方法ヲ取捨スハ  
 シ例ヘハ草類ハ蒸氣消毒ニテハ全ク用ヲナサ、ルニ至ルヲ以テ藥物  
 消毒ヲ撰フカ如キ類是ナリ
- (リ) 殺菌セント欲スル病毒ノ抵抗力ノ強弱ニ從ヒ殺菌藥ノ濃度并ニ其  
 ノ作用時間ヲ定ムヘシ抵抗力頗ル弱キ病毒ニ對シ濃厚ナル殺菌藥ヲ  
 用フルハ頗ル不經濟ニシテ抵抗力強キ病毒ニ對シ稀薄殺菌藥ヲ用ユ  
 ルトキハ消毒ハ無意味ニ了ルベシ
- (ヌ) 蛋白質ヲ凝固セシムル力アル殺菌藥ハ之ヲ有スル汚物ニ對シテ用  
 フベカラズ

消毒法ノ種類

(ル) 消毒スベキ物ノ反應ニ注意シ適當ノ殺菌藥ヲ用フベシ例ヘバ「アルカリ」ヲ有スル汚物ニ酸性ノ消毒藥ヲ用フルキハ互ニ化合シテ中性トナリ殺菌力ナキモノトナルガ如キ「ア」レバナリ

二 消毒法ノ種類

消毒ノ方法ニハ種々アレドモ之ヲ大別シテ器械的消毒法、理學的消毒法及ヒ化學的消毒法ノ三種トナシ更ニ各消毒法ヲ數種ニ細別ス

器械的消毒法

甲 器械的消毒法

此ノ方法ハ器械的ニ病毒ヲ除キ去ルノ方法ニシテ之ヲ直接滅殺スルモノニ非ラズ又完全ニ病毒ヲ除去スルコトハ不可能ナルベキヲ以テ其ノ効力ハ他ノ二法ノ如ク確實ノモノニアラズタメニ唯確實ノ方法ヲ施行スルコト能ハザル場合ニノミ應用セラル

- (イ) 洗濯 能ク洗ヒ後數次清水ヲ以テ濯クトキハ固ヨリ確實ナルヲ保證スル能ハザルモ大抵之ヲ除キ去ルヲ得ベシ
- (ロ) 拭ヒ去ルコト 不充分ナレドモ大ニ其ノ數ヲ減ズルヲ得ベシ
- (ハ) 麵麩拭去 食麵麩ノ軟部ヲ採リ一塊トナシ之ニテ病毒ニ汚サレタ

理學的消毒法

乙 理學的消毒法

(イ) 日光

ル部分ヲ叩キ病毒ヲ取り去ルモノニシテ液體ニテ濕スコト能ハザル壁、繪畫等ニ附着スル病毒ヲ除去スルニ用ユ

(ニ) 床上ニ砂或ハ木屑ノ少ク濕潤シタルモノヲ散布シ以テ床ヲ摩擦シ其ノ表面ニ附着スル病毒ヲ取り去ルノ法アリ

(ホ) 壁等ニ病毒ノ附着シテアルトキハ其ノ上ニ更ニ塗料ヲ施シ以テ病毒ノ剝離シ來ルヲ防グ法アリ輒近此ノ塗料ニ殺菌ノ性質ヲ有スルモノヲ用ヒ之ニテ單ニ病毒ヲ塗り隠クスノミナラズ同時ニ之ヲ殺菌スルノ法行ハル、ニ至レリ

「イ」乃至「ニ」ノ方法ニ於テハ其ノ際生ズル汚水麵麩并ニ砂等ハ使用後適當ノ理化學的方法ヲ用ヒテ殺菌スルヲ要ス

(イ) 日光

間接ノ日光モ多少殺菌力ヲ有スレトモ直接ノ日光ハ其ノ力甚ダ強シ結核菌ハ五―七時間ニ「チ」フス菌ハ四時間ニテ死滅スト之ハ日光ノ最モ強キ場合ニテ其ノ弱キ片ハ其ノ殺菌力モ從テ弱ハシ之ハ他ニ適當ノ方法ナキ場

日光殺菌法

消毒法

合ニ於テ屢々用ヒラル、コトアリ此ノ殺菌力ハ深部マテ竝透セサルヲ以テ唯表面ニ附着スル病毒ヲ死滅セシムルニ過ギズ人工紫外放射線水銀電燈モ水等ノ消毒ニ用ラル

レントゲン氏線并ニラヂウム放射線モ殺菌力アルカ如キモ實際的消毒ニハ未ダ用ラレズ

(ロ) 乾燥

病的菌中ニハ乾燥ノ爲メニ死滅スルモノアリ彼ノコレラ菌又ハ腦脊髓膜炎菌ノ如キハ之ニ由リテ比較的容易ニ死スル者ナリ然レモ乾燥ニ由リテ死滅スル難易ハ乾燥ノ状態ニ從ヒ差異アリ細菌ノミノ乾燥シタルモ容易ニ死スルモ他ノ物質ト共ニ乾燥シタル場合ニハ長ク其生活ヲ保ツモノナリ故ニ乾燥消毒ハ確實ノモノニ非ラス隨テ他ニ確實ナル方法ヲ用ヒ得ル場合ニ於テハ此法ニ安ス可ラス

(ハ) 熱

(一) 燒却 此ノ法ハ如何ナル病毒モ直ニ死滅シ安全ナル消毒法ナリトス、物品ノ消滅スルモノナレハ高價品ニ對シテハ用ユベカラサルモ價値ナ

熱消毒法  
燒却

乾燥殺菌法

乾熱消毒法

蒸氣消毒法

キ物品ハ燒却スルヲ以テ最良法トナス

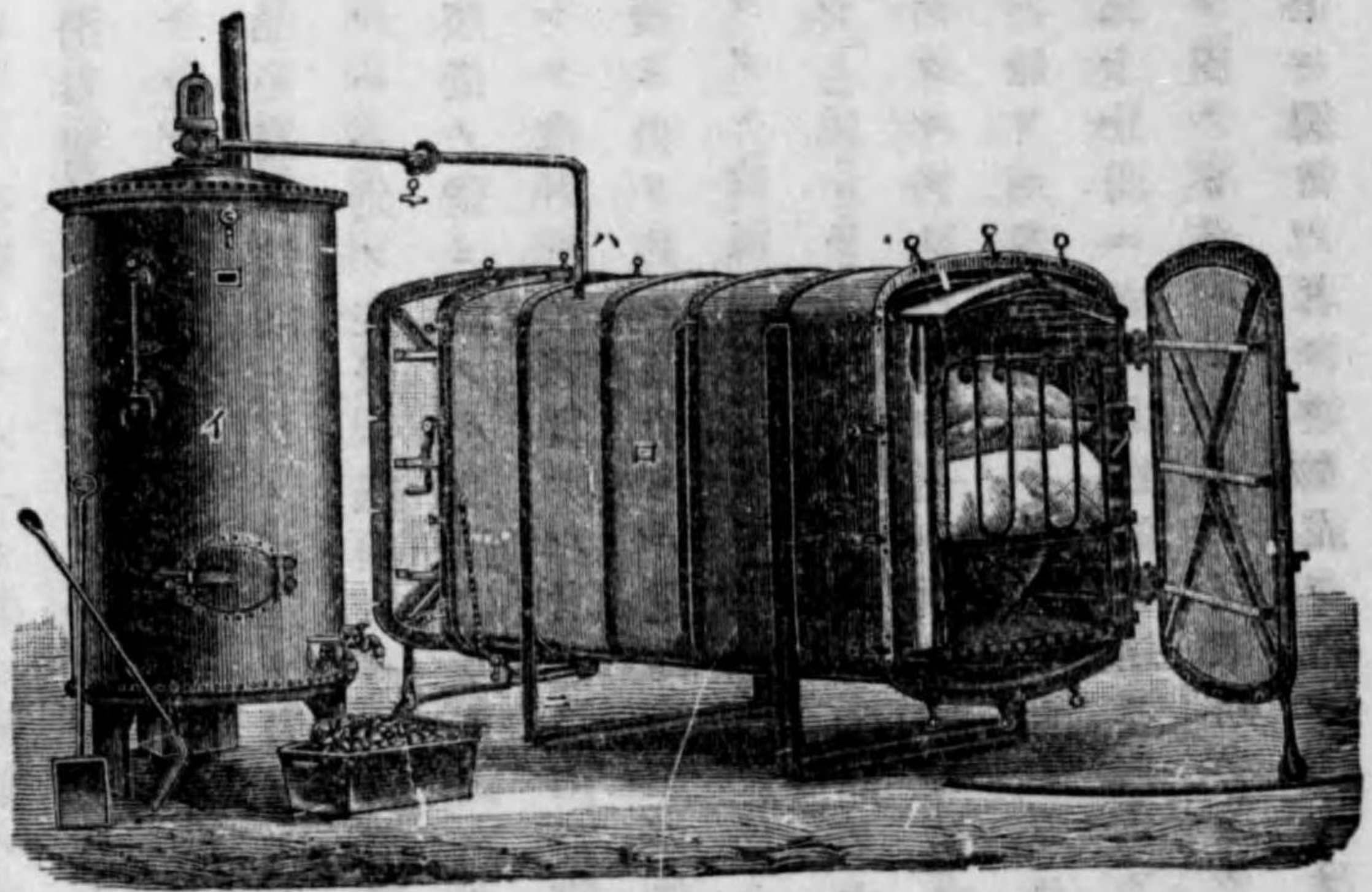
(二) 乾熱 一定ノ熱ニ達スレハ病毒ヲ殺スニ足ル然レトモ濕氣ヲ有スル同熱度ヨリ其力弱ハシ細菌學實習用ニハ乾熱ノ用キラル、一鈔カラサルモ實際上ノ消毒法トシテハ普通使用セラレサルモノナリ

(三) 濕熱即チ蒸氣

普通百度ノ流通飽和水蒸氣 (strömendes Wasserdampf) ヲ用フ之ハ三四十分ニシテ細菌ノ芽胞ヲ殺スヲ得ヘシ飽和水蒸氣ニアラズシテ空氣ヲ含ムモノハ設令其熱ハ百度トナルモ其殺菌力ハ弱キモノナリ又高壓水蒸氣 (Gespanntes Wasserdampf) 用ヒラル之レハ温度百度以上トナルヲ以テ一層速ニ消毒スルヲ得ベシ之レモ亦空氣ヲ混ズルトキハ温度ハ高クナレドモ其ノ力ハ減ズ乾燥セル綿ノ大塊團ヲ緊張蒸氣消毒器ニ入レテ消毒スル時其ノ中央部分ノ温度ハ百二三十度ニ昇ルニ係ラズ其ノ殺菌ノ不充分ナルコトアルハ中央部ニ空氣ノ殘リテ水蒸氣ノ飽和セザルニヨルナリタメニ蒸氣消毒ニ際シテハ如此ク空氣ヲ殘留スルコトナキヲ期スベシ又高熱蒸氣 (überhitze Dampf) 即チ蒸氣ヲ百度以上ニ熱シタル金屬面ヲ通過セシメ壓ヲ強メスシテ只温

度ヲ高メタルモノハ其ノ殺菌力ハ百度ノ飽和蒸氣ニ劣ルモノナリ  
 蒸氣消毒法ハ此ノ爲ニ品質ノ變化セザル者ノ消毒ニ適ス其装置ノ單簡ナ  
 ル者ハ前ニ殺菌法ノ條下(七八五頁)ニ述ベタルコッホ氏蒸氣殺菌器ナリトス  
 又更ニ簡單ナルモノヲ得ント欲セバ大釜ニ木ノ樽ノ胴ノ如キモノヲ据ヘ  
 其上ニ蓋ヲナシテ實際的ノモノヲ造ルヲ得ベシ然レモ普通ハ蒸氣發生器  
 ト消毒装置ノ二ヲ備ヘタル者用ヒラル而シテ之ニ運搬用ノモノト据付用  
 ノ者アリ之ヲ大規模ニナサント欲セバ大ナル消毒装置ヲ要スルノミナラ  
 ズ一定ノ建物ヲ造リ其中ニ据ヘ未消毒物及ビ既消毒物ノ混合スルヲ避ク  
 ルヲ要ス此消毒装置ハ普通橢圓形ニ横ニ長キ鐵ノ筒ニテ内徑ハ約三尺ニ  
 シテ其前後ニ金戸ヲ備フ此ノ一方ヲ開テ未消毒ノ物品ヲ入レ消毒終ラバ  
 他側ノ金戸ヲ開キ取り出シ未消毒室ヲ通ラズシテ他ニ送り出スモノナリ  
 故ニ完全ナル消毒所ニ在リテハ前後ノ金戸ハ別ノ室ニアリテ高キ壁ニテ  
 嚴ニ互ニ隔離セラル消毒装置ハ普通二重壁トナシ消毒スベキ物品ヲ中ニ  
 入タルハ先ツ蒸氣ヲ此内外壁ノ間ニ送りテ周側並ニ物品ヲ温メ然ル後  
 蒸氣ヲ筒内ニ送ルヲ可トス物品ヲ温メズシテ蒸氣ヲ送ルハ蒸氣ハ冷キ

第一七四圖  
 蒸氣消毒裝置



イ蒸氣罐  
 ハ蒸氣ヲ  
 送ル管  
 ニ消毒罐

物品ニ觸レ凝集シ  
 物品ヲ高度ニ濕シ  
 之レヲ害スルノ恐  
 アリ此消毒ニ際シ  
 特ニ注意ヲ要スル  
 ハ空氣ヲ全然除去  
 スルニアリ然ラザ  
 レバ消毒ヲ完全ニ  
 ナス能ハザルナリ  
 タメニ蒸氣ハ消毒  
 裝置ノ上部ヨリ送  
 リ下床ニ備フル一  
 管ヨリ出タスベシ  
 蒸氣ハ輕キヲ以テ  
 先づ上部ヲ充タシ

空氣ハ下部ヨリ排除セラルベシ若シ蒸氣ノ壓力ヲ高メ高度トナサンガタメ蒸氣ノ消毒裝置ヨリ出ル口ヲ閉サントスル場合ハ充分ニ空氣ヲ排除シタルノチナラザルベカラズ又消毒スベキ物品ニ能ク熱ヲ作用セシムルカタメニ物品ハ互ニ接觸セシメズ且ツ大塊トナスコトナク裝置内ニ置クヘシ成ルベクハ一定ノ裝置ニ懸垂スベシ又消毒裝置内ノ熱ハ百度ニ昇ルヲ要ス之ハ裝置ノ壁ニ備フル檢温器ニテ測ルモコンタクト檢温器ヲ消毒物ノ中ニ入レテ檢スルヲ確實ナル者トス消毒物内ノ温度百度ニ達スルキハ電流ノ接續ニ由リ外ニ裝置セル電鈴鳴ルガ故ニ百度トナリシヲ知ルヲ得又「コンタクト」檢温器ノ代リニ二重管ノ内ニ九六度ノ溶解點ヲ有スル「フェナントレン」(Phenanthren)ヲ消毒スヘキ物品ノ中ニ入レ置キ消毒後之ヲ檢スベシ其溶ケタルヲ見ハ温度一〇〇度ニ達シ一〇分間以上ヲ經タル證ナリ消毒物品ハ餘リニ多量ニ非ラザレバ普通蓋ニ裝置シタル檢温器百度ニ達シテ後二三十分間ニシテ其目的ヲ達スルヲ得ベケレドモ其量大ナルキハ其時間ヲ長フセザルベカラズ又鐵錆ヲ以テ消毒物ヲ汚スノ恐アルヲ以テ器ノ内側ニ適當ノ者ヲ塗り或ハ布ニテ物品ヲ被フベシ又消毒品ヲ乾燥

セシムルノ目的ヲ以テ消毒結了後蒸氣ヲ送ルヲ止メ下床ノ蒸氣出口ヲ開キ之ヨリ空氣ヲ送リテ乾燥セシメ然ル後物品ヲ取り出スベシ(第一七四圖)比較的容積ノ大ナル物品ノ内部迄ヨク消毒センガタメ真空裝置ヲ備ヘ消毒罐内ノ空氣ヲ吸出シ然ルノチニ蒸氣ヲ送入スルヲアリ  
蒸氣ニ殺菌藥ヲ混ズル場合ニハ蒸氣殺菌力ヲ高ムルモノナリ水ニ少ク「フォルマリン」ヲ加ヘテ蒸氣ヲ發生セシメバ大ニ有効ナリト云フ  
蒸氣ト「フォルムアルデヒート」ヲ低壓裝置内ニ送り此中ニテ消毒セバ温度ヲ百度ニセザルモ消毒力アリテ且ツ物品ヲ毀損セザルノ利アリト「ルネ」氏ハ此ノタメ特別ノ裝置ヲ造レル「ルネ」氏裝置ハ消毒裝置ノ外ニ空氣唧筒「フォルムアルデヒート」發生器及ヒ蒸氣罐ヲ備ヘ常ニ空氣唧筒ノ作用ニヨリ消毒裝置内ノ氣壓ヲ六〇〇密迷トシ之ニ「フォルムアルデヒート」ヲ蒸氣ト共ニ流通セシメ且ツ其ノ温度ハ六〇度ニ止ムル様ニナストキハ一時間ニテ物質ヲ毀損スルコトナク消毒スルヲ得ベシト  
「マイエル」氏ハ消毒罐壁ヲ二重ニナシ此ノ中ニ低溫ノ水ヲ送り(温度調節自在)他方ヨリ罐内ニ水蒸氣ト「フォルマリン」ヲ送り「ルネ」氏裝置ト同シ作

用ヲナスヲ得タリ

(四) 煮沸

煮沸ハ頗ル完全ナル消毒法ニシテ芽胞ヲ有スル病毒モ尙ホ五分間ニテ死滅ス曹達ヲ加フレハ一層力強ク金屬製ノモノハ此ノタメニ錆ブルヲ防グヲ得ベシ故ニ煮沸シテモ損セサルモノ或ハ損スルモ別ニ痛痒ヲ感セサルモノハ此ノ法ヲ用ユヘシ又臭氣アルモノ例ヘハ糞便ノ如キモノヲ煮沸消毒セント欲セハ防臭ノタメ過滿俺酸加里ヲ加ヘテ煮ルヲ便トス

丙 化學的消毒法

(イ) 液體消毒法

消毒藥トシテ必要ナル性質ハ水ニ溶解スルニアリ溶解セサルモノハ其ノ力弱ハシ又リポイド等ニモ溶解スルヲ要ス如此キ性ヲ有シテ始メテ菌體内ニ侵入シ之ヲ殺スヲ得ルモノナリ設令水ニ溶解スルモノナリトモ水ニ溶カサスシテ油或ハ無水アルコホル等ニ溶解シタルモノハ其水溶液ニ比シテ其ノ消毒力大ニ劣ルモノナリ又消毒藥ハ其ノ分量ニヨリ其ノ力ヲ異ニスタメニ一定ノ濃度ヲ要ス又其ノ力ハ溫度ト時間ニ關ス溫度高ク

時間長キトキハ同一濃度ノ消毒藥モ其ノ力大ニ増加ス又消毒藥ヲ二種混合スルトキハ屢其ノ作用ヲ増大シ一種ヲ單獨ニ比較的ニ濃厚ニナシテ用ユル場合ヨリ有効ナルコアリ又消毒藥ニハ中性鹽類ヲ加ヘテ其ノタメニ消毒力ヲ強ムルコアリ然レモ場合ニヨリテハ反テ減弱セシムルコアリ化學的物質ノ消毒作用ニ就テハ最近物理化學ノ進歩ノタメ其學說ニ變化ヲ來セリ消毒藥ノ水溶液ニハ消毒藥ハ其ノ者トシテ其儘溶存セス所謂電離作用 (elektrolytische Dissoziation) ニヨリ「イオン」(Ion) トシテ存在スル者アリ鹽類例之ハ昇汞ノ如キハ Hg<sup>+</sup>「イオン」ト Cl<sup>-</sup>「イオン」トナリテ存ス此ノ電離作用ハ稀薄溶液ナル程著シ昇汞ノ如キ一〇%ノ溶液ニ於テ最モ完全ニ兩「イオン」ニ別ル此ノ電離作用ハ其ノ溶液ニ他ノ鹽類ヲ添加スルトキハ影響ヲ蒙ルモノニシテ昇汞水ニ食鹽ヲ加フルトキハ電離妨グラレ Hg<sup>+</sup>「イオン」ノ量減シ其ノ消毒力ノ弱マルヲ見ル食鹽ノ量ノ大ナル程益減弱ス酸ノ溶液モ又電離シ H<sup>+</sup>「イオン」遊離ス強キ酸程其ノ量大ナリ鹽基 (Base) ノ溶液モ電離ニヨリ OH<sup>-</sup>「イオン」ヲ遊離ス鹽類酸アルカリ「溶液」ニ付キ其電離ノ状態ヲ見ルニ唯水溶液ニノミ著クシテアルコホル「エーテル」其他ノ溶液ニアリテハ僅微ナ

リ化學的物質ノ消毒力ハ電離スルモノニアリテハ其イオンノ力ニヨルモ其ノ「イオン」ニ電離セサルモノハ其ノ分子ニヨリ作用スルモノナリ (molekuläre Desinfektionswirkung) 「フェノール」ノ殺菌作用ノ如キ之レニ屬ス細菌ニ「アドソルプチオン」ヲナシテ之ヲ殺スモノナリ「アドソルプチオン」ハ水溶液ニ強ク油「アルコール」溶液ハ弱ハシ「フェノール」水溶液ノ消毒力ノ之ヲ他物ニ溶シタル液ヨリ大ナルハ之カタメナリ

消毒藥ノ殺菌力ヲ試験スルニハ一定稀薄溶液ヲ製リ其ノ中ニ可檢菌ヲ混シ種々ノ時間ヲ置キテ之ヲ培養基ニ移植シ其ノ發育スルヤ否ヤニヨリテ殺菌力ノ有無ヲ知ルニアレバ菌ニ殺菌藥ノ附着スル場合ニアリテハ屢々其ノタメニ發育ヲ妨止セラレ設令殺菌サレサルモ發育セサルガタメ殺菌サレタリト誤ルコトアリ特ニ芽胞ヨリ發育スル際防止セラル、コト著シ故ニ培養基ニ移植スルニ先チヨク消毒藥ヲ取り去ルベシ普通金屬性殺菌藥ハ硫化「アンモニウム」ニテ取扱ヒ又酸或ハ「アルカリ」ナレハ之ヲ中和スベシ又之ヲ行フ能ハサル場合ハ可成的器械的方法例之ハ洗滌等ニテ除去シ然ルノチ培養基ニ移植スベシ

昇 汞 (Sublimat)

一%ノ水溶液ハ暫時ニシテ總テ芽胞ナキ細菌ヲ殺スヲ得ヘクコレヲ菌ハ〇三%液ニテ暫時ニテ死滅ス往時一%液ヲ以テ脾脫疽菌ノ芽胞ヲモ暫時ニ殺スコトヲ得ヘシトナセシハ畢竟検査法ノ不完全ナルニ因スルモノナリゲッペルト氏 (Geppert) ノ試験ニ據レハ脾脫疽菌芽胞ヲ殺スニハ二時間ヲ要シ一六%ノ溶液トナスモ尙ホ一四分ヲ要スト云フ然レトモ温度ヲ高フスルトキハ大ニ時間ヲ少フスルコトヲ得

昇汞ハ蛋白「ペプトン」等ト結合シ不溶解性 (Quecksilberalbuminate) ノモノトナリ殺菌力ヲ失フカ故ニ大便喀痰等ヲ消毒スルニハ不適當ナリ然レトモ鹽酸ヲ五%或ハ酒石酸ヲ二%ノ割合ニ之ニ加フレハ此ノ凝集物ヲ再ヒ溶解スルモノナルヲ以テ此ノ不利益ヲ避クルコトヲ得ヘシ又鹽ヲ加フルトキハ同一ノ效アルモノナリ然レバ食鹽ノ如キ鹽類ハ水銀ノ電離ヲ妨ケ其ノ消毒力ヲ減スルニ至ルヲ以テ〇一—〇二%以上ニ加フベカラズ水溶液トシテ永ク時ヲ更タルモノハ其ノ力ヲ失フ (Oxychloride) ノ生スルタメ之ハ食鹽ヲ加ヘテ防グコトヲ得ベシタメニ錠劑トシテ食鹽ヲ加ヘタルモノ坊間ニ行





鹽酸

(七) 鹽酸 (Salzsäure)  
粗製品ヲ用ユ其ノ用法等硫酸ト同シ

硫酸鐵

(八) 硫酸鐵 (Eisensulfat)

殺菌藥トシテハ其ノ効著カシラス只防臭劑トシテ糞尿等ニ混スルニ適ス

硫酸銅

(九) 硫酸銅 (Kupfersulfat)

殺菌藥トシテハ効著シカラス然レモ一%ノ割合ニ加フレハ腐敗ヲ防クコトヲ得ヘシ水中ノ藻類ニハ強ク作用スルモノナリ

石炭酸

(十) 石炭酸 (Karbolsäure)

是ハ特ニ多ク用ヒラルモノナルガ其ノ可ナル點ハ其効力ノ持續スルト蛋白質等アルモ其消毒力ノ減少セサルニアリ其一・五—二%溶液ハコレヲ「チフス」チフテリ「馬鼻疽菌」脾脫疽菌無芽胞連鎖球菌ヲ一分間ニ殺スヲ得然レモ葡萄狀球菌ハ二—五%液ニアラサレハ一分間ニ殺スアタハス又脾脫疽菌ノ芽胞ハ三七度ニ温ムルモ五%ノ溶液ニテ三時間ヲ經ザレバ殺スコト能ハスト石炭酸ノ効力ハ之ニ五%ノ割合ニ食鹽ヲ加フルトキハ大ニ増進ス吾國ノ消毒法ニテハ五%食鹽加三%石炭酸液用ラル消毒力大ナレモ缺

點ハ之ニヨリテ金屬ノ腐蝕スルト被消毒物ノ容易ニ乾カサルニアリ「アルカリ」ヲ加フルトキハ其ノ消毒力ヲ減ス

石炭酸ハ殊ニ革、木材、鐵類ノ消毒ニ適ス、石炭酸石鹼溶液トシテ石炭酸ヲ五%加里石鹼ヲ二—三%ノ割合ニ溶解シタル液ハ革類ノ消毒ニ適ス

粗製石炭酸

(十一) 粗製石炭酸 (Rohkarbolsäure)

之ハ石炭酸、クレゾール及高位ノ「フェノール」混和液ニシテ暗褐色ナル濃厚液ナリ「ナトロン」液ニハ種々ノ割合ニ溶解スルモ水ニハ僅ニ溶クルノミ故ニ其ノ儘便所ニ使用セラル粗製石炭酸ト粗製硫酸ノ等分混和液モ亦同一ノ目的ニ使用セラル

「クレゾール」

(十二) 「クレゾール」 (Kresol)

「クレゾール」ニ「メタクレゾール」オルトクレゾール「バラクレゾール」ノ三種アリ其ノ消毒力ハ第一者最強ク第二者之ニ次キ第三者ハ最モ弱シ普通此ノ三者ノ混合物即「トリクレゾール」用ラル其ノ消毒力ハ石炭酸ノ約三倍ナリト云フ

「クレゾール」  
石鹼

(十三) 「クレゾール」石鹼 (Kresolseife)

此ノクレゾール石鹼ノ種類ハ甚タ多シ「リゾール」「クレオリン」「バチロール」ク  
レゾリン「クレザボリン」(Lysol, Creolin, Bacilor, Kresolin, Kresapolin)等ナリ製造ニ  
用ユル石鹼ノ種類「クレゾール」ノ種類並ニ其含有量ノ差等ニヨリ其ノ消毒  
力ヲ異ニスルノミナラス同一品ニテモ場合ニヨリテ其ノ消毒力ヲ異ニス  
然レモ此ノ中最モ消毒力ノ強クシテ製品ニヨリ其ノ力ノ差ノ大ナラサル  
モノヲ「リゾール」トナス「リゾール」ハ蒸溜水ニハ透明ニ溶解ス一%溶液ハ無  
芽胞細菌ヲ暫時ニテ殺スヲ得

石鹼

(古) 石鹼 (Saple)

消毒用トナルモノハ普通加里石鹼ナルモ其ノ効用ハ左程強カラス三%水  
溶液ニテ五〇度ニ温メ一時間除ニシテ僅ニ「コレラ」菌ヲ殺スニ過キス

(五) 「アルコール」(Alkohol)

普通エチールアルコールヲ用ユ此ハ比較的微弱ノ殺菌藥ナレトモ遊離  
シテ表面ニ存在スル「チフス」菌葡萄球菌等ノ如キ芽胞ナキモノハ五〇—  
七〇%「アルコール」ニテ五分以内ニ之ヲ殺スヲ得無水「アルコール」ニ至  
テハ滅菌ノ効殆ント之アルナシ

「アルコール」

「沃度ホルム」

(六) 沃度「ホルム」(Iodoform)

殆ント殺菌力ナシ防腐ノ力アルノミ

「フォルマリン」

(七) 「フォルマリン」(Formalin)

フォルムアルデヒドノ四〇%水溶液ヲ云フ比較的消毒力強ク殊ニ芽胞  
ニ強ク作用スルノ性アリ其ノ缺點ハ鼻ヲ衝ク臭氣アルト皮膚ヲ侵蝕シ蛋  
白質ヲ凝固セシムルニアリ通常一%溶液ヲ用ユ「チフス」菌等ノ芽胞ナキモ  
ノハ之ニヨリ一時間以内ニ消毒セラレ一萬分一ニテモ防腐ノ効アリ  
此ノ缺點ヲ除去セル製劑トシテ「リゾフォルム」(Lysoform)アリ其ノ一%溶液ハ  
化膿菌「チフス」菌等ヲ一—三時間ニ死滅セシムト

瓦斯消毒法

(ロ) 瓦斯消毒法

瓦斯消毒ト名クレトモ實ハ液體消毒ト同シ普通瓦斯ノミニテハ其ノ効力  
大ナラス故ニ水蒸氣ノ多量ヲ之ト共ニ送ルヲ要ス然ルルハ瓦斯ハ水蒸氣  
ノ凝集シテ生シタル水ト共ニ物體面ニ附着シテ茲ニ其ノ作用ヲナスモノ  
ナリ瓦斯消毒ハ室内ノ如キ大ナル所ニテ手ノ達セザル場所ヲ消毒スルニ  
適ス瓦斯消毒ハ何レノ種類タルヲ問ハス物體ノ深部ニ達セス唯表面ニ存

亞硫酸瓦斯

在スル病毒ヲ殺スニ過キス

(一) 亞硫酸 (Schweflige Säure)

往時盛ニ行ハレシモ近時ハ用ヒラル、コト少ナカリシカクレイトン氏装置 (Clayton's Apparat) ノ工夫サレシヨリ漸ク再ヒ世ニ行ハレントスルノ傾アリ之ハ殺菌セント欲スル室内或ハ器中ニ於テ一立方迷ノ内容ニ對シ四〇乃至五〇瓦ノ硫黃ヲ薰スルモノナリ換氣ノアル時ハ消毒ヲ妨クル恐アルカ故ニ戸隙子等ハ空隙ヲ閉塞シ空氣ノ交通ヲ制限スヘシ日本家屋ノ如キハ換氣頗ル可ナルヲ以テ瓦斯ヲシテ永ク同一度ノ濃度ヲ保タシムル能ハス故ニ瓦斯消毒法ヲ完全ニ施行スルノ頗ル困難ナルヘシ亞硫酸瓦斯ノ作用ヲ有效ナラシムルニハ豫メ水ヲ煮沸シテ水蒸氣ヲ蒸發セシメ室壁物品等ヲ濕潤シ然ル後亞硫酸瓦斯ヲ發散シ室ヲ密閉シ一二四時間其ノ儘ニ放置スヘシ亞硫酸消毒ハ物品ヲ毀損シ奏効確實ヲ期スル能ハサルヲ以テ近來ハ「フォルムアルデヒド」消毒法ノ爲メ壓倒サレタルノ觀アリ

(二) 「フォルムアルデヒド」(「フォルマリン」)消毒法 (Formaldehyd Formalin) 「フォルムアルデヒド」ハ「メチールアルコホール」ノ酸化ニ由リテ發生スルモ坊間

「フォルムアルデヒド」消毒

ニハ其ノ溶液(四〇%)ヲ「フォルマリン」ト稱シテ販賣ス

其ノ作用ハ只表面ニ止マル然レトモ物品ヲ毀損スルコト少キヲ以テ他ノ消毒ヲ行フ能ハサル場合或ハ室内ノ如キ道具ヲ持チ出スノ煩アルトキハ室内ヲ其ノ儘トナシ消毒スルニ供セサル

「フォルムアルデヒド」瓦斯ヲ以テ消毒スルニ當リ注意スベキ點甚ダ多シ

一、乾燥シテアルトキハ其ノ消毒力弱キヲ以テ一定ノ方法ニ由リ水蒸氣ヲ同時ニ多量ニ發生セシムルヲ要ス

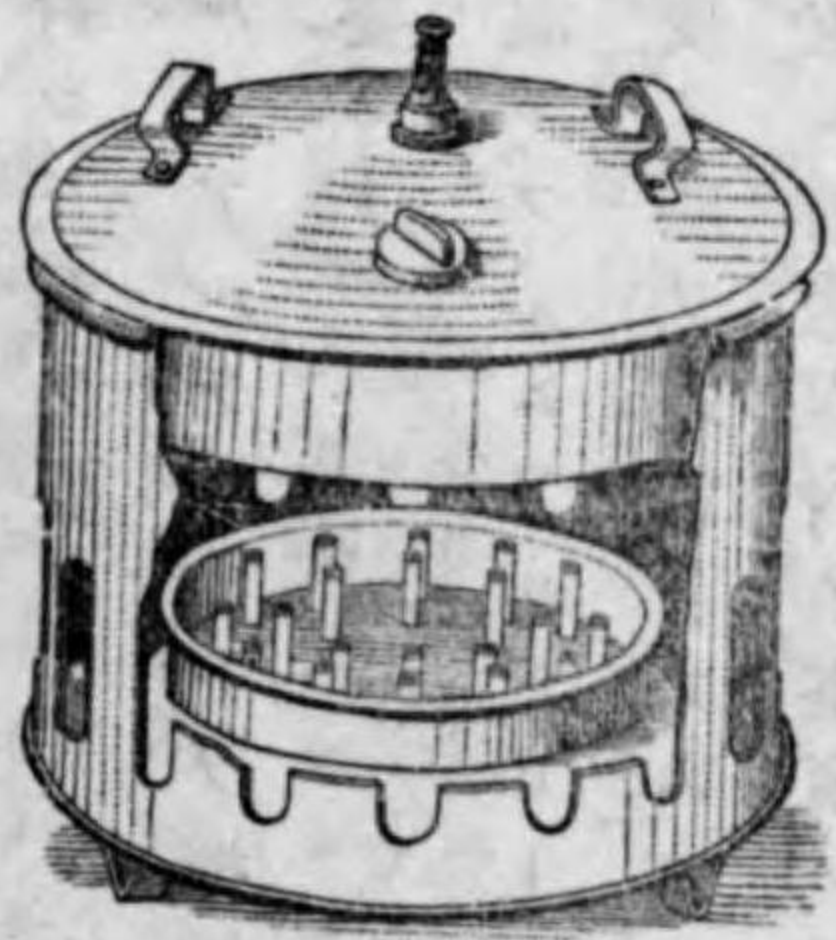
二、「フォルムアルデヒド」ノ量ハ消毒スヘキ物品ノ量并ニ消毒セント欲スル病毒ノ抵抗力ニ由リ取捨スヘキハ論ヲ俟タサルモ平均一立方迷ノ室内容積ニ對シ五瓦ヲ要ス

三、「フォルムアルデヒド」ヲ揮散セシメタル後少クモ五―六時間ハ密閉シ置クヲ要ス

四、氣温ハ「フォルムアルデヒド」ノ消毒作用ニ關係アルモノナリ故ニ二〇―二五度ノ間ヲ適當トナスモ少クモ十度以上タルベシ

五、室並ニ消毒器内ノ空氣ノ換氣ヲ防キ「フォルムアルデヒド」量ノ減少

第一七五圖  
プロスレウ式



ヲ防ク爲メ空隙ハ能ク目帖リスヘシ  
 六、物品ハ互ニ離シ能ク瓦斯ニ接觸  
 スル様ニ務ムベシ  
 七、消毒後、フォルムアルデヒードヲ去  
 ル爲メ、アムモニヤヲ適當量ニ即チ「フォル  
 マリン」一〇〇ccニ對シ一〇%「アムモニ  
 ヤ」液三五〇ccヲ霧狀トナシテ室内ニ送リ結合セシムヘシ (Hexamethylentetra-  
 min  $C_6H_{12}N_4$  トナル) 炭酸「アムモニヤ」又用ラル一〇〇瓦ノ「フォルムアルデヒ  
 ード」ニ對シ一三〇—一五〇瓦ヲ要スト  
 「フォルムアルデヒード」發生器ハ其ノ種類甚ダ多シ  
 「メチールアルコホール」ヲ酸化セシメテ製ル發生器アルモ「アルコホール」ニ  
 點火スルノ恐アルノミナラス「フォルムアルデヒード」ノ發生量不確實ナルカ  
 故ニ賞用ヒラレス  
 シエーリングノ法ハ「フォルムアルデヒード」ノ錠劑ヲ作り之ヲ熱シテ空氣中  
 ニ揮散セシムルノ法ナリ然レトモ汎ク用ヒラレス「フォルマリン」ヲ一層稀薄

第一七六圖  
アラウニスツ氏裝置



ニナシ之ヲ煮沸シテ水蒸氣ト共ニ蒸發セシムルノ法屢、用ヒラル此ノ趣  
 旨ヲ以テ造ラレタル器械甚ダ多シ「リンゲネル」(Lingner) ツルスフィールド  
 (Thursfield) プロスカウエル (Proskauer) ツレウキツ (Zarewicz) プレスラウ式消毒器  
 等皆是ナリ「プレスラウ式」消毒器ハ第一七五圖ノ如ク能ク密閉シ得ル金屬  
 器ニシテ上蓋ニ蒸氣噴出口アリ此ノ中ニ普通「フォルマリン」ヲ水ニテ五倍ニ  
 稀薄シタルモノヲ入レ下ヨリ熱シ噴出口ヨリ「フォルムアルデヒード」ト蒸  
 氣トヲ共ニ噴出セシム又「ブルマリン」消毒器ニハ噴霧裝置ヲ基礎トシテ構  
 造サル、モノアリトリ  
 ルラ (Trilat) プラウスニツ  
 (Pausnitz) 氏等ノ裝置ハ  
 即チ是ナリ「プラウスニツ  
 ツ」氏式ハ第一七六圖ノ  
 如ク甲ナル蒸氣發生器  
 ト之ニ取り付ケタル乙  
 ナル「フォルマリン」容器ア

リテ噴出シ來ル所ノ蒸氣ニ由リ「フォルマリン」ヲ霧狀ニ散布セシムルモノナ  
 リ以上ノ發生器ハ人ナキ室ニテ發生セシムルモノナルカ故火災其他ノ不  
 利益アリ爲ニ發生器ヲ室外ニ置キ鍵孔ヲ通シテ送ル「アルモ」大ナル部屋  
 ニ於テハ不充分ノ恐アリ近來「アウタン」(Autan)ナルモノ用ラル(之ハ「パラフ  
 オルム」(Paraforn)ト過酸化「バリユーム」ノ混合物ナリ)之ニ適當量ノ温水(一〇〇  
 瓦「アウタン」ニ對シ八〇瓦ノ水ヲ加フルトキハ「フォルムアルデヒド」水蒸氣  
 發生スルモノナリ又容器内ニ此ノ量ニ相當シタル丈ノ「アムモニヤ」發生劑  
 ガ添付サル、ヲ以テ消毒ヲ了ハリタルノチ之ヲ發生シテ「フォルムアルデヒ  
 ド」ヲ中和スベシ此ノ方法ノ普通ノ「フォルムアルデヒド」發生法ニ比シテ  
 便利ナルハ特別ノ瓦斯發生器ヲ要セサルト火ヲ要セサルヲ以テ火災ノ恐  
 ナキト「フォルムアルデヒド」一時ニ發生スルヲ以テ必要量ニ達スルマデニ  
 時間ヲ要セザルトニアリ之ハ比較的高價ナルヲ以テ次ノ方法ヲ一層可ナ  
 リトス即二基瓦ノ純過滿俺酸加里二基瓦ノ「フォルマリン」并ニ「二基瓦ノ  
 水ヲ混スルトキハ「フォルムアルデヒド」并ニ水蒸氣發散ス而シテ上述ノ量  
 ニテ百立方迷ノ室ヲ消毒スルニ足ル赤色ノ飛沫ノ飛散アリ又高熱ヲ發ス

「アウタン」  
 使用量取扱  
 ハ容器ニ明記  
 サル  
 使用法

過滿俺酸加里  
 法

ルタメ誤テ此ノ中ニ紙等ヲ入ル、トキハ燃ヘテ煤ノ立ツコトアリタメニ  
 此點ニ注意スベシ

三 消毒法ノ撰擇

(イ) 人體 人體ノ一部ハ殺菌藥ヲ用ヒテ消毒ヲ行フコトヲ得ルモ全體  
 ノ消毒ハ到底不可能ナリ故ニ全身浴ヲ行フニ過キス病毒ヲ保有スルノ疑  
 アリテ他ニ危險ヲ及ホスノ恐アルトキハ潜伏期ニ相當スルノ時日間他ト  
 隔離スルヨリ外方法ナシ  
 手、足等ニ病毒ノ附着シタル場合ハ一%昇汞水、一—二%石炭酸水、一%「リゾ  
 ール」水等ニ數分時浸シノチ石鹼ト温水トニテヨク洗フベシ

(ロ) 排泄物

(一) 喀痰唾液 一定ノ唾壺ニ集メ五%石炭酸液或ハ五%「リゾール」液  
 ヲ等分ニ加ヘ二四時間放置スベシ尙ホ一〇%「リゾール」液ナルトキ  
 ハ十二時間ニテ最モ消毒シ難キ結核菌ヲモ殺菌スルヲ得ベシ  
 唾壺内ニ曹達水ヲ入レ之レニ喀痰セシメ之ヲ煮沸シ或ハ蒸氣ニテ  
 消毒ス又唾壺ニ砂或ハ細キ鋸屑ヲ入レ之ニ喀痰セシメ之ヲ燒クベ

消毒法ノ撰擇

消毒法

シ紙型睡壺ヲ用ユレハ共ニ燒クヲ得ベシ

(二) 含嗽水 之モ又一容器ニ集メ石炭酸リゾール等ヲ一%以上ノ割合ニ加ヘ數時間放置スベシ

(三) 糞尿吐物 五%石炭酸或ハ五%リゾール或ハ石灰乳ヲ等分ニ加ヘ又水酸化石灰ヲ五分ノ一ノ割合ニ加ヘヨク攪拌シ少クトモ二時間作用セシメテノチ便所ニ棄ツベシ糞便固キトキハ内部ニ働カサルヲ以テ之ヲ挫キテ混交スベシ便器ハ一—二%石炭酸或ハ一%リゾール水ニテ消毒スルヲ要ス

(四) 血液濃汁鼻粘液 之ヲ拭ヒタル紙綿等ハ之ヲ燒クベシ燒ク能ハサルトキ一器ニ一—二%石炭酸或ハ一%リゾール液ヲ充タシ此ノ中ニ投棄シ少クモ二時間作用セシムベシ

(ハ) 便所 踏板キンカクシ戸ノツマミ等ハ二%石炭酸等ニテ消毒スヘク糞池ノ糞便ヲ消毒スルニハ石灰乳ヲ内容二分—三分一ノ割合ニ入レヨク混交スレハ二—三時間ニテ先ツ消毒スルヲ得ベシ

(ニ) 室 天井ハ普通消毒ヲ要セサルモ必要アリト認メタルトキハ一—

消毒法

二%石炭酸一%クレゾール水又一%昇汞水ニテ洗フカ又ハ拭フヘシ板壁并床モ亦同シ患者ノ居ル時トモ毎日一回床ハ之レニテ拭フヲ可トス土壁又ハ壁紙ハ麩麩ノ軟キ部分ヲ以テ拭ヒ取ルヘシ疊ハ其ノ表面ヲ二%石炭酸ニテ拭ヒ且ツ日光ニ曝ラスヲ要ス又能ク密閉シ得ヘキ室ナレハ其ノ儘フォルムアルデヒード消毒ヲ行フヲ便ナリトス凡テ室内消毒ヲ了リタル後ハ能ク日光ト空氣ヲ入ル、コトヲ務ムヘシ

(ホ) 室内道具 濕スモ差支ナキモノハ二%ノ石炭酸ニテ拭フヘシ室内ニ置キタルマ、フォルムアルデヒード消毒ヲナスモ可ナリ

(ヘ) 寢具 蒸氣消毒ヲ可トス

(ト) 衣服類 蒸氣消毒ヲ可トス他ノモノ、色素ニ汚サル、コトナキ様ニ注意スヘク糞便等汚物ノ附着シタルモノハ直チニ消毒セハ汚斑ノ固着シテ取レサルニ至ルヲ以テ之ヲ取去リテノチ消毒スベシ下着等ハ一—二%石炭酸水クレゾール水又リゾール水又フォルマリリン水ニ二時間浸シテヨク水ニテ洗フモ又タ石鹼水等ニテ煮ルモ可ナリ

(チ) 書籍 液體消毒藥又ハ高熱蒸氣等ハ之ヲ毀損スルヲ以テ用ユル能

ハス他法ニヨルヲ可トス空氣ノ比濕ヲ二五—三〇%トナシ八〇度ニ温メ其ノ中ニ三—四時間置クトキハ毀損セスシテ内部マテ消毒シ得ヘシト唱フルモノアリゲルトネル氏法ハ一定装置ニテ先ヅ以テ書籍ヲ温メ其冷ヘサル中ニ消毒装置ニ送り此ノ中ノ温ヲ八十度トナシ器中ノ空氣ヲ抜キ去リ此ノ中ニアルコホルル水ヲ蒸發セシメ水蒸氣トアルコホルル蒸氣ヲシテ一—五時間働カシムルモノナリ又タ器中ヲ低壓トナシテ、フォルムアルデヒードト水蒸氣ヲ送り消毒スル法アリ(温度六〇—六五度、氣壓六〇〇密迷、フォルムアルデヒード量八%消毒時間一時間己ムヲ得ザレバ日光消毒ヲナスベシ)

(リ) 毛革、革、護謨類 一%クレゾール水又二%石炭酸水ニテ拭ヒ或ハ霧狀トシテ之ニ注クベク又、フォルマリオンニテ消毒スヘシ蒸氣消毒ハ絶對的ニ用ユヘカラズ毛革ニテ低温四十五度氣壓約七〇〇密迷トナシテ、フォルムアルデヒード水蒸氣ニテ消毒スルヲ可ナリト云フモノアリ

(ヌ) 飲食器具 之ハ煮沸消毒ヲ可トス水又ハ曹達水ニテ十五分間煮ルベシ又小刀、肉刀ノ如キハ一%フォルマリオン水ニ一時間浸シ水ニテヨク洗フ

ベシ膳ノ如キハ昇汞水、石炭酸水等ニテ拭ヒ後能ク清水ニテ洗フヘシ

(ル) 浴水並ニ洗濯水 石灰乳ヲ強クアルカリ性ヲ呈スルマテ加ヘ又

クロール石灰ヲ著ククロール臭ヲ呈スルマデ加ヘ少クモ二時間放置スベシ

(オ) 櫛類ハ一%ホルマリオン液ヲ用ユ

(ワ) 塵芥 焼却スルヲ可トス

(カ) 井戸 近來、クロール又ハクロール石灰用ラル其ノ量ハ水量ニ對シテクロール量百萬分ノ一ノ割合ニ之ヲ入ルベシ尙ホ少ク硫酸ヲ入レ酸性トナセバ其ノ殺菌力ノ増大スルヲ見ル如此クシテ二四時間放置シ井戸替ヲナシテ後用ユレハ愈可ナリ

(ヨ) 水道管ノ消毒 之ヲナサルベカラザル場合ハ稀硫酸ヲ用ユ〇〇五%ニテコレラ菌ニ侵サレタル場合ハ殺菌スルヲ得ベシ

(タ) 下水アメリカニテハ硫酸銅用ラル、モ、クロール石灰ヲ可トシ其ノ有効ノ分量ハ其ノ下水ノ成分ニヨリ異ナル中等度ノ汚水ハ五千分ノ一ニテ二—五時間ナレハ芽胞ナキ病的菌ヲ殺スニ足ルト、大ナル浮遊物アルト



キハ効力ヲ減スルヲ以テ消毒前之ヲ去ルベシ  
 (レ) 汽車、電車、其他運搬車ノ消毒 尙ホ家室ノ如クナスベシ或ハ「フォルマリン」蒸氣消毒ヲナシ或ハ稀薄石炭酸、リゾール等ニテ洗ヒ或ハ拭フベシ  
 車消毒ニハ汽車一輛ヲ入ル、ニ足ル大ナル鐵製圓筒ヲ造リ此ノ中ニ車輛ヲ入レ密閉シ之ニ蒸氣ヲ送リテ五五度ニ温メ更ニ一ノ脚筒ニヨリ圓筒内ヨリ空氣ヲ出シテ低氣壓トナシ之レニ「フォルムアルデヒド」ヲ送リ消毒スルトコロアリ(ボツダーム)

衛生學講義 後編終



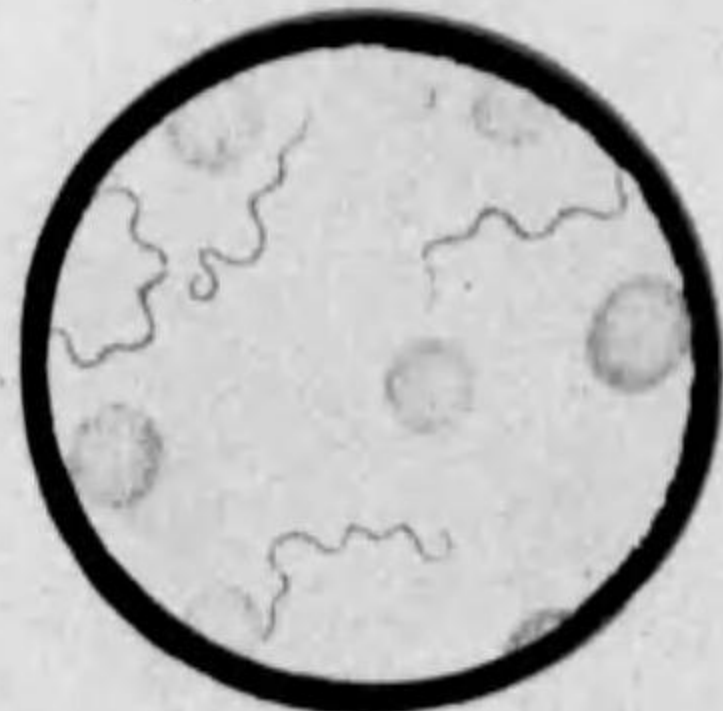
圖一第 菌 疔 脫 脾



圖二第 胞 芽 菌 疔 脫 脾



圖三第 絲 菌 疔 脫 脾



圖四第 菌 旋 螺 熱 蹄 再



圖五第 菌 風 傷 破



圖六第 菌 核 結



圖七第 菌 癩



圖八第 菌 毒 淋

圖三十第



菌腸大

圖四十第



菌ザンセルフンイ

圖五十第



菌疽鼻馬

圖六十第



菌毒丹

圖九第



菌スフチ

圖十第



毛鞭菌スフチ

圖一十第



フチノ上養培一キスルガリド  
落集(赤)菌腸大=並(青)菌ス

圖二十第



菌旋螺毒蝸

圖一十二第



(體小)菌一リテフヂ

圖二十二第



菌 膿 縁

圖三十二第



菌マムコラレコ

圖四十二第



菌球狀葡萄 上  
菌球狀鎖連 下

圖七十第



菌 ト ス ベ

圖八十第



狀鎖連ノ菌トスベ  
ノモスナフ

圖九十第

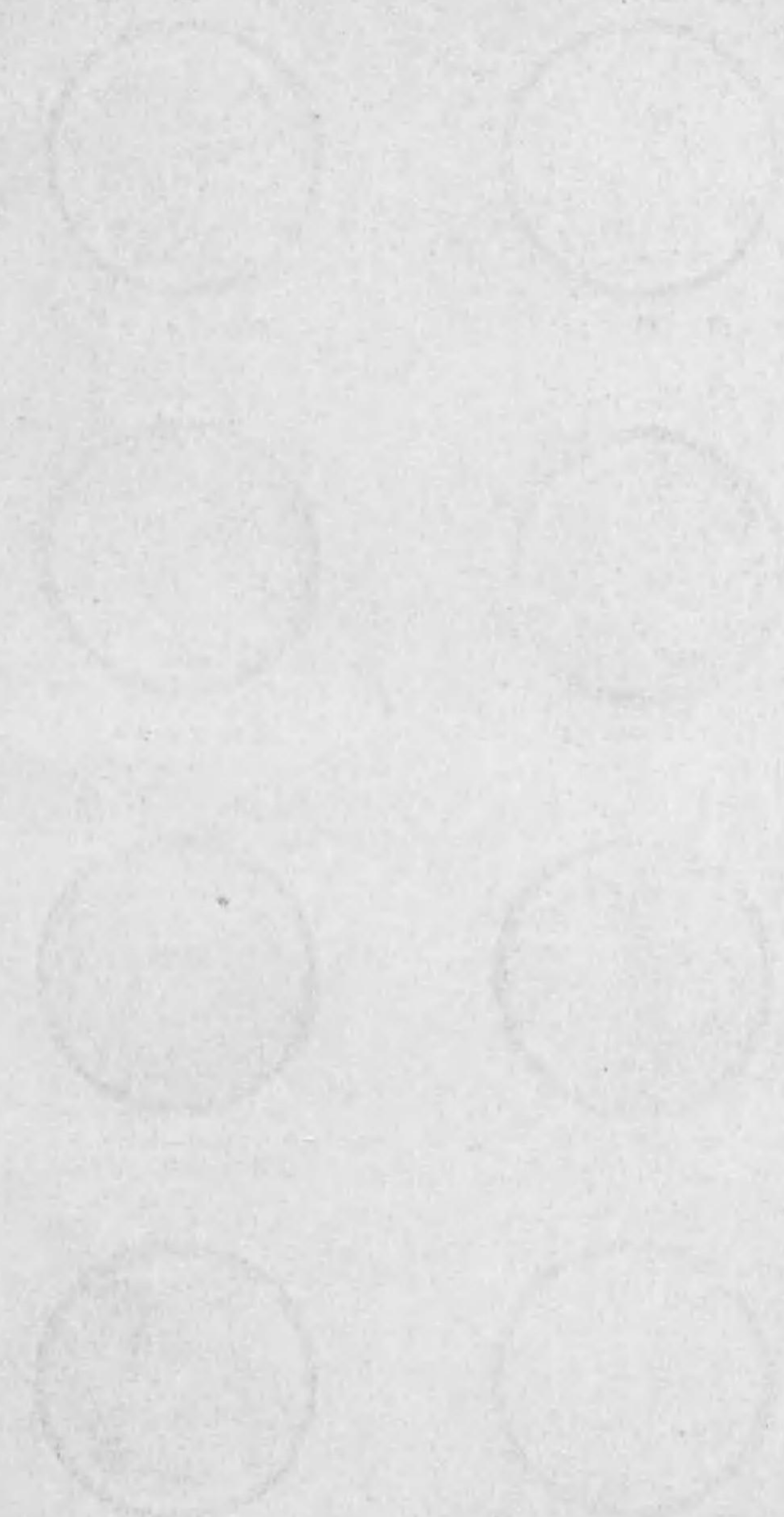


菌一リテフヂ

圖十二第



菌 球 炎 肺



圖九十二第



(一) 四日熱原蟲帶  
(二) 半月狀態

(一) 兩日熱輪  
(二) 兩日熱アメーバ狀原蟲

圖五十二第



菌旋螺痘黃性血出本日

圖十三第



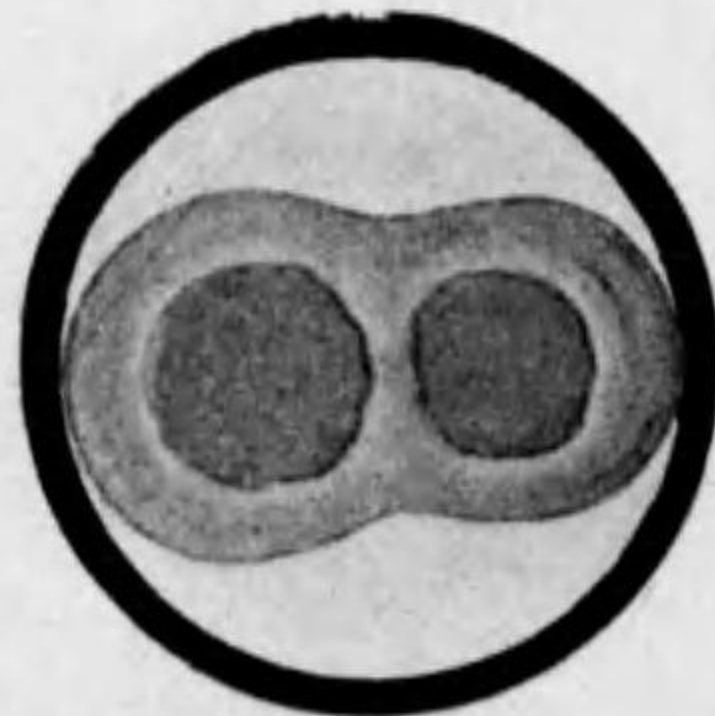
マーゾノバリト病眠睡

圖六十二第



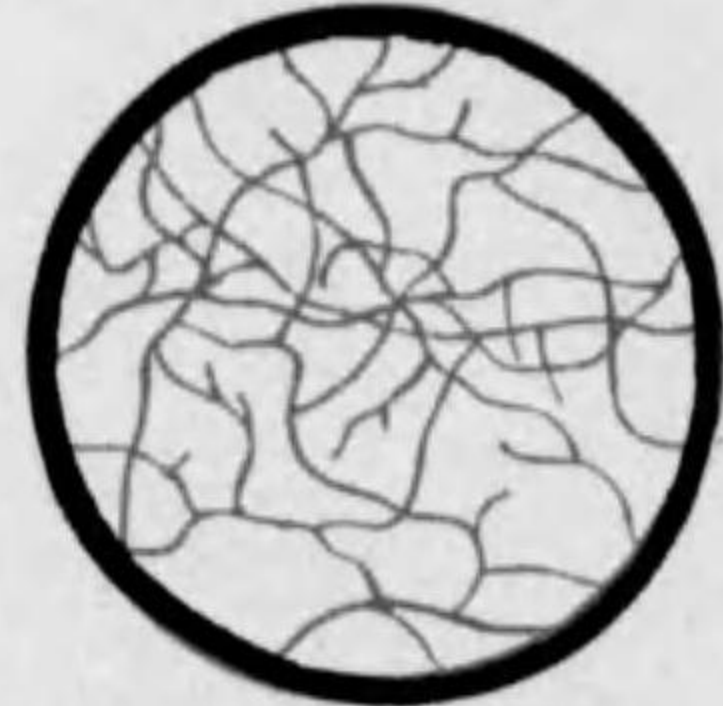
菌炎膜髓脊腦

圖一十三第



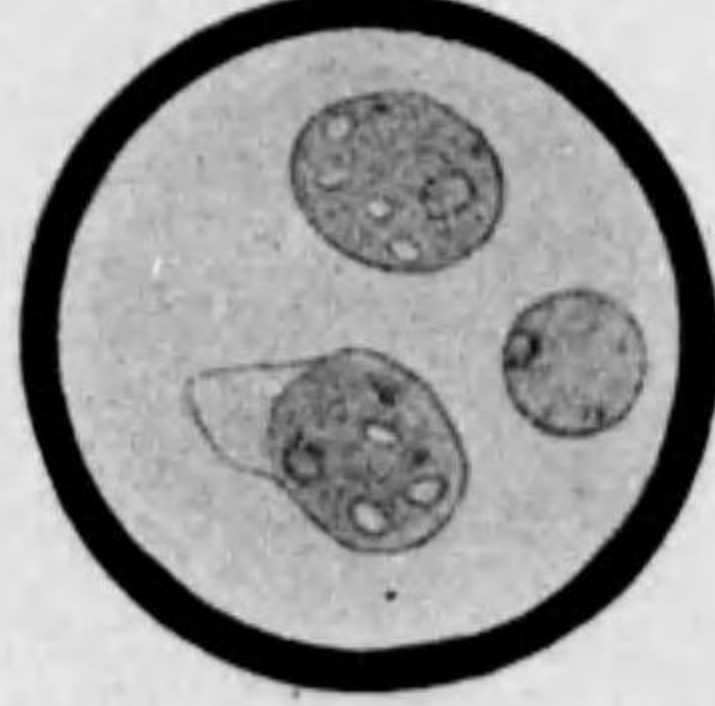
培膠阿)落集菌ラレコ  
(化液膠阿圍周、基養

圖七十二第



菌スエツミノチクア  
(ノモルタシ養培)

圖二十三第



(中物容内腸)パーメア

圖八十二第



菌スエツミノチクア



61
11 <sub>v</sub>

終